



LINUS

LINUS 製品操作マニュアル

LINUS LIVE v.1.2.0 Beta

2017-01-20





■ 安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人々への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。また、お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してください。

●注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



警告

この表示内容を見逃して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

●電源 / 電源ケーブル

- ・電源ケーブルの上に重いものをのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因となります。電源ケーブルが傷んだときは（断線・芯線の露出等）、販売店に交換をご依頼ください。
- ・AC100V、50Hz/60Hzの電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- ・必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり大変危険です。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。
- ・電源プラグにほこりが付着している場合は、きれいにふき取って使用してください。感電やショートのおそれがあります。
- ・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ・電源プラグはアース（グラウンド）されている適切なコンセントに接続する。アースされていないコンセントに接続した場合、感電の原因となります。
- ・雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグには触れないでください。感電の恐れがあります。

●分解禁止

- ・分解や改造は行わないでください。製品内部にはお客様が修理 / 交換できる部品はありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。

●水・火・細かい固形物に注意

- ・水や薬品の入った容器やろうそくなどの火器類、金属片などの細かい固形物を機器の上に置かないでください。倒れて、内容物が中に入ったりすると火災や感電の原因となります。

●異常があるとき

- ・煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。



注意

この表示内容を見逃して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

●電源 / 電源ケーブル

- ・電源プラグを抜くときは、電源ケーブルを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜いてください。
- ・長時間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- ・配線は電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。

●設置

- ・機器の重量に耐える強度を持った安定した場所に設置してください。バランスが崩れて落下すると、けがの原因となります。
- ・移動する際は、背中や腰を痛めないように、重量に十分注意してください。必要に応じて、何人かで協力して作業を行ってください。
- ・万一、落したり破損が生じたりした場合は、そのまま使用せずに修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。
- ・以下のような場所には設置しないでください。

直射日光の当たる場所 / 極度の低温又は高温の場所 / 湿気の多い場所 / ほこりの多い場所 / 振動の多い場所 / 風通しの悪い場所

●取扱い

- ・電源を入れる前や音声ケーブルの接続時には、各ボリュームを最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因になることがあります。
- ・ヒューズ及びモジュールを交換する際は、専任のサービス要員にお問い合わせください。正しく取り付けられていないと感電や火災の原因となります。
- ・廃棄は専門業者に依頼してください。燃やすと化学物質などで健康を損ねたり火災などの原因となります。



■ 使用上のご注意

取り扱いおよび移動について

性能・耐久性をより長く維持するために以下の点にご注意ください。

- ・ 移動の際には、丈夫なラックやフライトケースに入れてください。
- ・ ラックやフライトケースから取り出す場合は、各つまみやコネクター部を持ったり衝撃を与えないように十分注意してください。
- ・ すべての配線を取り外してから、移動してください。
- ・ 外装を、ベンジンやシンナーなどで拭かないでください。変質や塗料がはげる原因となることがあります。外装のお手入れには、乾いた柔らかい布をご使用ください。

設置について

- ・ 高電圧送電ケーブル、ブラウン管、テープレコーダー、大型 LED 機器、トランシーバーを含む各種携帯電話等通信機器など、強電磁界付近への設置は避けてください。外部からの誘導電界は、音声回路に悪影響を与えます。
- ・ 放熱が良い環境で使用してください。また暖房機や熱を発生する物の側には設置しないでください。ラックやフライトケース等に収納して使用する場合は、通気スペースを十分に取ってください。その際、吸気口や排気口は絶対に塞がないでください。
- ・ 電源コードを踏んだり、もので挟んだりしないように注意してください。

信号レベルについて

各入出力信号の仕様をご確認の上、以下の点に注意して接続を行ってください。

- ・ パワーアンプへ接続する入力信号が、適切なレベルのものかどうかを確認してください。S/N 比等の特性を悪化させる原因となります。
- ・ バランス入力に同相信号や高周波信号を入力しないでください。
- ・ 出力は、仕様に定められたインピーダンスよりも低いインピーダンスのスピーカーに接続しないでください。

■ 保証書について

- 保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より 1 年間は保証期間です(LINUS10 は 6 年間の保証期間)。保証書の記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
- お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」が正しく記入されていない場合は保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- 改造など通常の使用範囲を超えた取り扱いによる、設計・製造以外の要因で起きた故障や不具合は、期間内であっても保証の対象外となります。

■ 故障かな？と思われる症状が出たときには

本書をもう一度よくお読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときは、お買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。





■目次

LINUS CON.....	6
1. モジュールナンバーの設定.....	7
2. プリセットの選択.....	7
3. 入力信号のルーティング設定.....	7
4. 入力ゲイン.....	7
5. ディレイ.....	7
6. 出力ゲイン.....	8
7. チューニング.....	8
8. 機器の个体情報の確認及びディスプレイ設定.....	8
9. 機器のロック機能.....	9
10. クイックロック機能.....	9
11. カスタマイズしたユーザープリセットの保存方法.....	10
12. 信号用LED.....	10
LINUS 10.....	11
1. ユニットモード.....	12
2. モジュールナンバー.....	12
3. プリセットの選択.....	12
4. 入力信号のルーティング設定.....	13
5. 入力ゲイン.....	13
6. ディレイ.....	13
7. 出力ゲイン.....	13
8. チューニング.....	14
9. 機器の个体情報の確認及びディスプレイ設定.....	14
10. ロック機能.....	15
11. クイックロック機能.....	15
12. 編集済みのユーザープリセットの保存方法(近日追加予定).....	16
13. 信号用LED.....	16
LINUS 5-C/10-C.....	17
1. メニュー(0:MAIN MENU).....	18
2. 入力選択.....	18
3. 入力ゲイン.....	18
4. 入力ディレイ.....	19
5. チューニング.....	19
6. チューニング2.....	21
7. ディ스플레이のロック.....	22
8. プリセットの選択.....	22
9. プリセットの保存.....	23
10. IPの設定.....	23
11. システム温度.....	23
12. バックライト.....	24
13. 情報.....	24





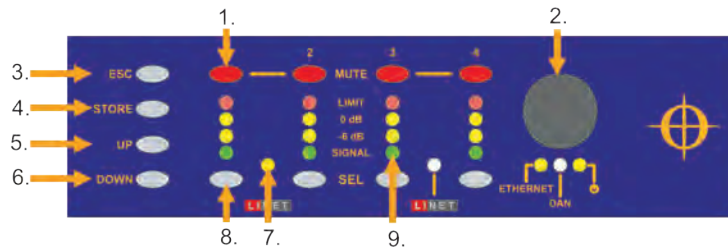
LINUS Live	25
1. LINUS Liveの設定	26
2. LINUS Liveシステムの画面概要	28
3. 画面表示.....	29
4. モジュールの状況	30
5. プリセットの構造について.....	31
6. ルーティング設定	32
7. 信号のサミング	33
8.1. アナログフォールバック	34
8.2. LiNETのアイコンの概要	34
8.3. LiNETのアイコン フォールバックの例.....	35
8.4. LiNETのアイコン 操作.....	36
9. Groupの編集.....	37
10. モジュールの出力 グループ機能配列	38
11. メーターインジケーション.....	39
12. モニターモードロック	41
LINUS Live TUNING	42
1. ゲインレベル.....	43
2. タイムアライメント	43
3. アレイ機能.....	44
4. Distance(距離)機能.....	44
5. Sizing機能	44
6. High Shelfフィルター	44
7. Human EQ設定	45
8. LowBoost	45
9. SubSonic.....	45
10. パラメトリックEQ	45
11. シェルビングEQ	46
12. フルスケールチューニングウィンドウ.....	46
付録.....	47
仕様.....	50



LINUS CON

ディスプレイユニットの操作方法について

操作方法の概要



インジケーター

1. チャンネルミュートボタン
2. ロータリーエンコーダーノブ
パラメーターの選択 / 変更 / 入力を行います。
3. “ESC” エスケープボタン
選択の取り消しやメインオペレーションのページに戻るときに押します。
4. “Store” ボタン
ポジション 1 ~ 5 のユーザープリセットの設定時に使用します。(近日追加予定)
5. “Up” ボタン
オペレーションページを上に進みます。
6. “Down” ボタン
オペレーションページを下に進みます。
7. LiNET LED : デジタル信号が選択されていることを示します。
LED on → デジタル音声入力
LED off → アナログ音声入力
8. チャンネル選択ボタン
9. “Signal” LED
入力または出力信号の LED です。

1. モジュールナンバーの設定

ロータリーエンコーダーノブを回してハイライトされている選択項目の箇所を動かし、画面右上のモジュールナンバーの項目へ移動させてノブを押して下さい。

```
LinusCon  Single  #01 ← Rack Number
P 14:ViRAY-A
I 1_LF 1_HF 2_LF 2_HF
G 0.0 0.0
```

その後ノブを回してその機器のモジュールナンバーを 1～75 で選択し、ノブを押して決定してください。

2. プリセットの選択

ノブを回して選択項目を“P”の箇所まで動かし、ノブを押してプリセット番号を変更出来るようにします。

```
LinusCon  Single  #01
P 14:ViRAY-A G ← Preset
I 1_LF 1_HF 2_LF 2_HF
G 0.0 0.0
```

“P”の項目欄の一番右側に“G”のマークが表示されている場合、それはその機器がグループに組み込まれていることを示しています。プリセット変更とチューニングページのロック状態を解除するには、ロータリーエンコーダーノブで“G”マークを押してグループパラメーターを解除する必要があります。

その際にはソフトウェアのチューニングパラメーターとグループ群が削除されます。(Point 7 を参照)

※注意：プリセットを変更すると現状の編集済みのパラメーターは全て消去されます！！

3. 入力信号のルーティング設定

“I”の項目ではノブを回して任意の出力先のチャンネルを選び、ノブを押して決定します。

各チャンネルへの信号のルーティング設定および入力信号の種類を決定する(アナログかデジタル)

```
LinusCon  Single  #01
P 14:ViRAY-A
I 1_LF 1_HF 2_LF 2_HF ← Input
G 0.0 0.0
```

※重要：信号のルーティング設定はプリセットにより制限されます。

例) ViRAY-P：4つの入力チャンネルを個別に選択可能

LA12：1つの入力チャンネルのみ

※入力信号のチャート：

- ・アナログ入力：A、B、C、D
- ・デジタル入力 (LINET：AES3 同等)：1、2、3、4、5、6、7、8

4. 入力ゲイン

1 ページ目の“G”の項目では選択したチャンネルの入力ゲインが調整できます。

```
LinusCon  Single  #01
P 14:ViRAY-A
I 1_LF 1_HF 2_LF 2_HF
G 0.0 0.0 ← Gain
```

5. ディレイ

“Down” ボタンを押して2つ目のページに移動し、ノブを回して“D”の位置まで移動し、必要なチャンネルの位置でノブを押してディレイの値が調整できます。

```
0 1_LF 1_HF 2_LF 2_HF
D 0.00 0.00 0.00 0.00 ← Delay
G 0.0 0.0 0.0 0.0
T 1-> 2->
```

- ・ディレイを使用する出力チャンネルに位置するエンコーダーノブを押します。
- ・ディレイは ms(ミリ秒) 単位で表示されます。



6. 出力ゲイン

2 ページ目の “G” の項目では選択したチャンネルの出力ゲインを調整します。

	O	1_LF	1_HF	2_LF	2_HF
	D	0.00	0.00	0.00	0.00
Output Gain →	G	0.0	0.0	0.0	0.0
	T	1->	2->		

7. チューニング

“T” の項目でノブを押すことで以下のチューニング用ページに移動できます。

	O	1_LF	1_HF	2_LF	2_HF
	D	0.00	0.00	0.00	0.00
	G	0.0	0.0	0.0	0.0
Tuning →	T	1->	2->		

Tuning Page

- ・ Array(1 アレイで使用されるラインアレイエレメントの総数を入力)
- ・ Sizing
- ・ High Shelf ・ Human EQ
- ・ Low Boost ・ Sub Sonic

<-Tune:1			EQ->
Array	8x	Sizing	1.0
HFShlf	0.0	Human	0.0
LowBst	0.0	SubSon	0.0

また画面右上の “EQ” をノブで選択することでパラメトリック EQ の詳細調整画面へ移動します。

<-Tune:1			EQ->	← full parametric EQ
Array	8x	Sizing	1.0	
HFShlf	0.0	Human	0.0	
LowBst	0.0	SubSon	0.0	

I	1K00	0.0	3.00
N	1K00	0.0	3.00
1	1K00	0.0	3.00
	1K00	0.0	3.00

↑ Output Ch
 ↑ Frequency
 ↑ Gain
 ↑ Q Factor

8. 機器の個体情報の確認及びディスプレイ設定

最初のメイン画面から “Down” ボタンを 2 回押すと以下の項目が表示されます。

	LinusCon	↓	autoname1	↑	
個別シリアルナンバー →	132001	V1.49	Lib 0.9	←	プリセットライブラリのバージョン
IP アドレス →	IPA 192.168.001.001	#01		←	モジュールナンバー
	Disp:0	Led:0	0000	Lock->	
		↑			ディスプレイのコントラスト値

9. 機器のロック機能

機器概要ページを開き、「Lock」を選択します。

```
LinusCon
132001 V1.49 Lib 0.9
IPA 192.168.001.001 #01
Disp:0 Led:0 0000 Lock->
```

新しいパスワード（数字）を「New Password」に入力し、確認のために「Confirm New」にも入力します。パスワードを設定した後、「Current Password」フィールドにパスワードを入力し、「Lock」を押します。

```
Device
Lock->          Unlock->
New Password    *****
Confirm New     *****
```

設定したパスワードを「Enter Password」フィールドに入力することにより、機器のロックを解除できます。

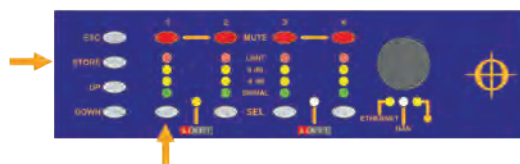
```
Enter Password
          0
```

「Unlock」を押すとロックが解除されます。

```
Device
Lock->          Unlock->
New Password    *****
Confirm New     *****
```

10. クイックロック機能

- ・何時でもクイックロック機能を使えば機器をロックすることが出来ます。
- ・“Store ボタン” と “Ch1 の Selection ボタン” を同時押しします。（解除の場合も同様）



ディスプレイの表示が自動的に初期のメイン画面に移行し、ロック状態を示す“L”が画面上に表示されます。

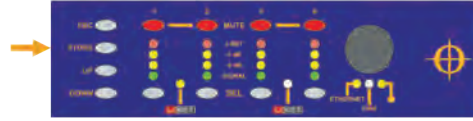
```
LinusCon Single L #01
P 14:ViRAY-A
I 1_LF 1_HF 2_LF 2_HF
G 0.0 0.0
```

※注意：ロック時には“Mute” ボタンのみが操作可能です。その他全ての操作 / 機能変更は無効になります。



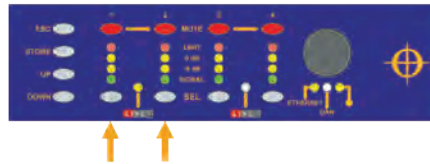
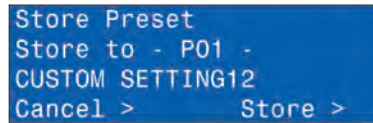
11. カスタマイズしたユーザープリセットの保存方法

本体にユーザー自身が編集したプリセットデータを保存します。



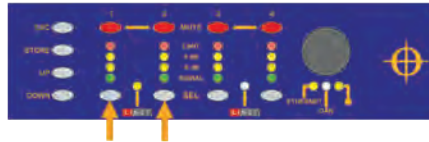
- a) ライブラリ番号の 01 ~ 20 のスロットがユーザープリセット保存用に用意されています。
- b) 任意の名前をプリセットに付けて下さい。
- c) “Store” か “Cancel” を選択して完了します。

※ロータリーノブを回転して保存先の番号や名前の文字変更を行います。
文字間の移動は “Select” ボタンで行います。



12. 信号用 LED

“Select” ボタン 1+2 を同時押しで LED の表示を入力 / 出力と切り替えられます。



その際には画面に以下のメッセージが数秒表示されます。

出力表示時のメッセージ



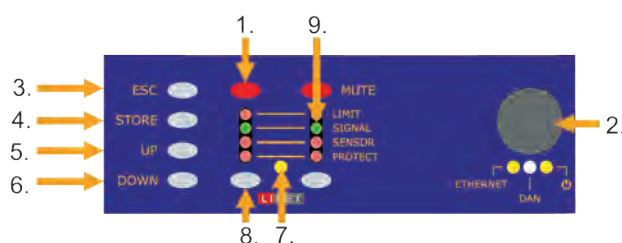
入力表示時のメッセージ



LINUS 10

ディスプレイユニットの操作方法について

操作方法の概要

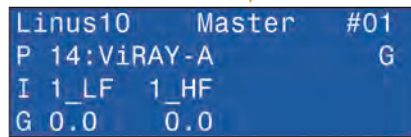


インジケーター

- 1.チャンネルミュートボタン
- 2.ロータリーエンコーダーノブ
パラメーターの選択 / 変更 / 入力を行います。
- 3.“ESC” エスケープボタン
選択の取り消しやメインオペレーションのページに戻るときに押します。
- 4.“Store” ボタン
ポジション 1 ~ 5 のユーザープリセットの設定時に使用します。(近日追加予定)
- 5.“Up” ボタン
オペレーションページを上に進みます。
- 6.“Down” ボタン
オペレーションページを下に進みます。
- 7.LiNET LED : デジタル信号が選択されていることを示します。
LED on → デジタル音声入力
LED off → アナログ音声入力
- 8.チャンネル選択ボタン
- 9.“Signal” LED
入力または出力信号の LED です。

1. ユニットモード

ロータリーエンコーダーノブを動かし、ユニットモード画面になったところでロータリーエンコーダーノブを押します。

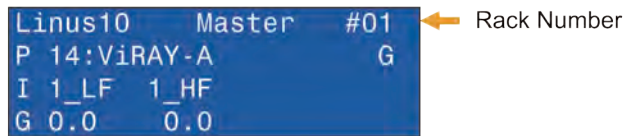


```
Linus10  Master  #01
P 14:ViRAY-A      G
I 1_LF  1_HF
G 0.0    0.0
```

エンコーダーノブを回して LINUS 10 のマスター機器かスレーブ機器かを選択して押します。

2. モジュールナンバー

モジュールナンバーの設定はマスターユニットを使用します。スレーブ機器は自動的に設定されます。



```
Linus10  Master  #01 ← Rack Number
P 14:ViRAY-A      G
I 1_LF  1_HF
G 0.0    0.0
```

エンコーダーノブを回して 1 ~ 75 の番号を選択し、エンコーダーノブを押して決定します。

3. プリセットの選択

マスター機器のロータリーエンコーダーノブで “ P ” の項目にあわせませす。

プリセットを選び、ロータリーエンコーダーノブを押して決定します。スレーブアンプは自動的にプリセットが変更されます。



```

Preset → Linus10  Master  #01
          P 14:ViRAY-A      G ← Group Parameter
          I 1_LF  1_HF
          G 0.0    0.0
-----
          Linus10  Slave   #01
          P 14:ViRAY-A      G
          I 1_LF  1_HF
          G 0.0    0.0
```

プリセットの変更やチューニングオプションをアンロックするためには、ロータリーエンコーダーノブで “ G ” (Group Parameter) を押して削除する必要があります。

※注意：マスター + スレーブ関係下ではプリセット変更時にグループパラメーターを失います。プリセットの変更をするたびに全てのグループパラメーター（チューニングパラメーター）を削除してください。

4. 入力信号のルーティング設定

“I” の項目ではノブを回して任意の出力先のチャンネルを選び、ノブを押して決定します。
各チャンネルへの信号のルーティング設定および入力信号の種類を決定する（アナログかデジタル）

```

Linus10  Master  #01
P 14:ViRAY-A      G
Input → I 1_LF  1_HF
          G 0.0  0.0
-----
Linus10  Slave  #01
P 14:ViRAY-A      G
Input → I 1_LF  1_HF
          G 0.0  0.0
    
```

※重要：信号のルーティング設定はプリセットにより制限されます。

例) ViRAY-P：4つの入力チャンネルを個別に選択可能
LA12：1つの入力チャンネルのみ

※入力信号のチャート：

- ・アナログ入力：A、B
- ・デジタル入力（LINET：AES3 同等）：1、2、3、4、5、6、7、8

※重要：プリセットの内容によりますが、以下のゲイン、ディレイ、チューニングの設定は Master と Slave それぞれのユニットで行う必要があります。

5. 入力ゲイン

1 ページ目の “G” の項目では選択したチャンネルの入力ゲインを調整します。

```

Linus10  Master  #01
P 14:ViRAY-A      G
Gain → I 1_LF  1_HF
          G 0.0  0.0
    
```

6. ディレイ

- ・ “Down” ボタンを押して 2 つ目のページに移動します。
- ・ ノブを回して “D” (Delay) の位置まで移動します。

```

Delay → O 1_LF  1_HF
          D 0.00 0.00
          G 0.0  0.0
          T 1->
    
```

- ・ ディレイをかけたい出力チャンネルの位置でノブを押し、ディレイの値を調整します。
- ・ ディレイは ms（ミリ秒）単位で表示されます。

7. 出力ゲイン

“G” の項目のゲインバランスを調整する出力チャンネルの上でロータリーエンコーダーを押して値を調整し、再度押して確定します。

```

Output Gain → O 1_LF  1_HF
                D 0.00 0.00
                G 0.0  0.0
                T 1->
    
```



8. チューニング

“T” の項目でノブを押すことで以下のチューニング用ページに移動できます。

```

0 1_LF 1_HF
D 0.00 0.00
G 0.0 0.0
T 1->
    
```

プリセットによってチューニングできる
さまざまな出力が選択可能

Tuning Page

- ・ Array(1 アレイで使用されるラインアレイエレメントの総数を入力)
- ・ Sizing
- ・ High Shelf ・ Human EQ
- ・ Low Boost ・ Sub Sonic

```

<- Tune:1 EQ->
Array 8x Sizing 1.0
HFShlf 0.0 Human 0.0
LowBst 0.0 SubSon 0.0
    
```

また画面右上の“EQ” をノブで選択することでパラメトリック EQの詳細調整画面へ移動します。

```

<- Tune:1 EQ->
Array 8x Sizing 1.0
HFShlf 0.0 Human 0.0
LowBst 0.0 SubSon 0.0
    
```

← full parametric EQ

```

I 1K00 0.0 3.00
N 1K00 0.0 3.00
1 1K00 0.0 3.00
1 1K00 0.0 3.00
    
```

↑ Output Ch ↑ Frequency ↑ Gain ↑ Q Factor

9. 機器の個体情報の確認及びディスプレイ設定

最初のメイン画面から“Down” ボタンを 2 回押すと以下の項目が表示されます。

```

Linus10          autoname1
142001 V2.49    Lib 0.9
IPA 192.168.001.001 #01
Disp:0 Led:0 0000 Lock->
    
```

ファームウェアのバージョン 個別機器ネーム
 個別シリアルナンバー → ← プリセットライブラリのバージョン
 IPアドレス → ← モジュールナンバー
 ↑
 ディスプレイのコントラスト値

10. ロック機能

機器概要ページを開き、「Lock」を選択します。

```
Linus10
132001 V2.49 Lib 0.9
IPA 192.168.001.001 #01
Disp:0 Led:0 0000 Lock->
```

新しいパスワード（数字）を「New Password」に入力し、確認のために「Confirm New」にも入力します。パスワードを設定した後、「Current Password」フィールドにパスワードを入力し、「Lock」を押します。

```
Device
Lock->          Unlock->
New Password    *****
Confirm New     *****
```

設定したパスワードを「Enter Password」フィールドに入力することにより、機器のロックを解除できます。

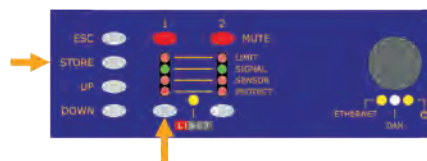
```
Enter Password
          0
```

「Unlock」を押すとロックが解除されます。

```
Device
Lock->          Unlock->
New Password    *****
Confirm New     *****
```

11. クイックロック機能

- ・何時でもクイックロック機能を使えば機器をロックすることが出来ます。
- ・“Store ボタン” と “Ch1 の Selection ボタン” を同時押しします。（解除の場合も同様）



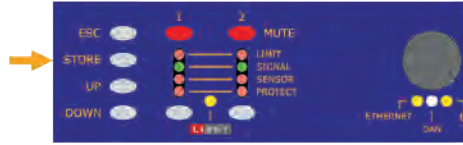
ディスプレイの表示が自動的に初期のメイン画面に移行し、ロック状態を示す“L”が画面に表示されます。

```
Linus10 Master L #01
P 14:ViRAY-A G
I 1_LF 1_HF
G 0.0 0.0
```

※注意：ロック時には“Mute” ボタンのみが操作可能です。その他全ての操作 / 機能変更は無効になります。

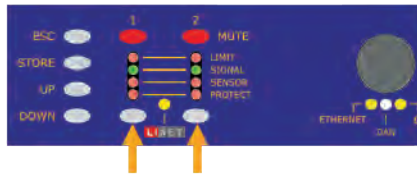
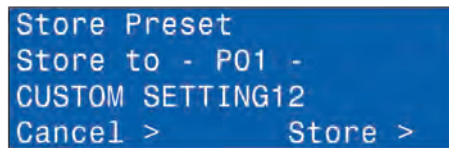
12. 編集済みのユーザープリセットの保存方法 (近日追加予定)

本体にユーザー自身が編集したプリセットデータを保存します。



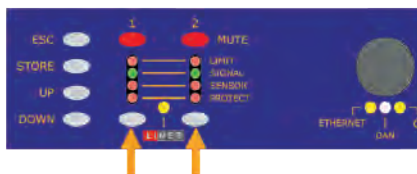
- ライブラリ番号の 01 ~ 20 のスロットがユーザープリセット保存用に用意されています。
- 任意の名前をプリセットに付けて下さい。
- “Store” か “Cancel” を選択して完了します。

ロータリーノブを回転して保存先の番号や名前の変更を行います。
文字間の移動は “Select” ボタンで行います。



13. 信号用 LED

“Select” ボタン 1+2 を同時押しで LED の表示を入力 / 出力と切り替えられます。



その際には画面に以下のメッセージが数秒表示されます。

出力表示時のメッセージ



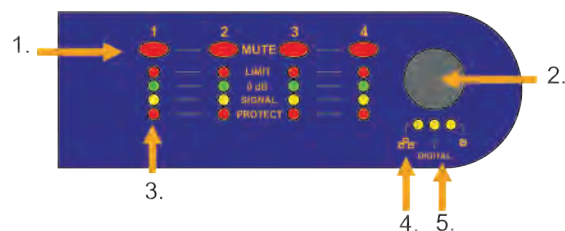
入力表示時のメッセージ



LINUS 5-C/10-C

ディスプレイユニットの操作方法について

操作方法の概要



インジケータ

1. チャンネルミュート / 実行ボタン
2. ロータリーエンコーダーノブ。パラメーターの選択 / 変更 / 実行を行います。
3. 信号、リミッター、プロテクトのLED
4. リモート用イーサネットの接続表示LED
5. デジタル入力 (LiNET-C) の選択表示LED

1. メニュー (0:MAIN MENU)

ロータリーエンコーダーノブを押すとメニューに入ります。



2. 入力選択

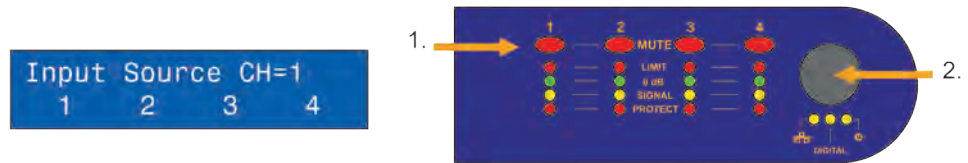
ロータリーエンコーダーノブで 1:SELECT INPUT に移動して下さい。



ロータリーエンコーダーノブを押して入力ソース選択画面を開きます。



設定するチャンネルのチャンネルミュートボタン (1) を押ししながら、エンコーダーノブ (2) を回します。



この例ではチャンネル 1 を選択し、デジタル入力チャンネル 1 を出力 1 にルーティングしています (入力 2 → 出力 2、入力 3 → 出力 3、...)。

入カルーティングトポロジー

アナログ= A、B、C、D

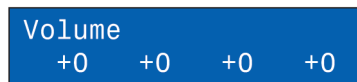
デジタル= 1、2、3、4

3. 入力ゲイン

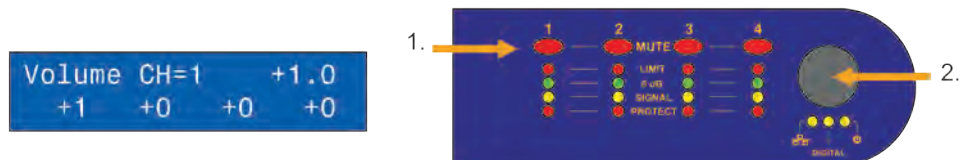
エンコーダーを回して「2: INPUT GAIN」にカーソルを合わせます。



エンコーダーノブを押してゲイン選択画面を開きます。



設定するチャンネルのチャンネルミュートボタン (1) を押ししながら、エンコーダーノブ (2) を回します。



この例ではチャンネル 1 を選択し、ゲイン値を +1.0dB に設定しています。

LINUS 5-C/10-C

4. 入力ディレイ

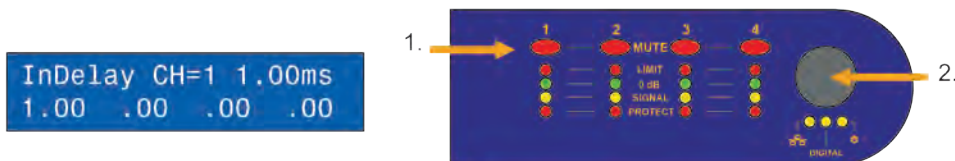
エンコーダーを回して「3: INPUT DELAY」にカーソルを合わせます。



エンコーダーノブを押してディレイ選択画面を開きます。



設定するチャンネルのチャンネルミュートボタン (1) を押ししながら、エンコーダーノブ (2) を回します。

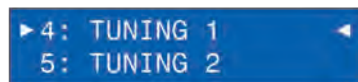


この例ではチャンネル 1 を選択し、ディレイを 1.00ms に設定しています。

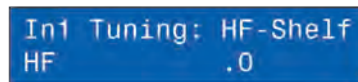
※ヒント：ロータリーエンコーダーノブを押すごとに値のスクロール幅が切り替わり、最大 200ms の入力ディレイを設定できます。

5. チューニング

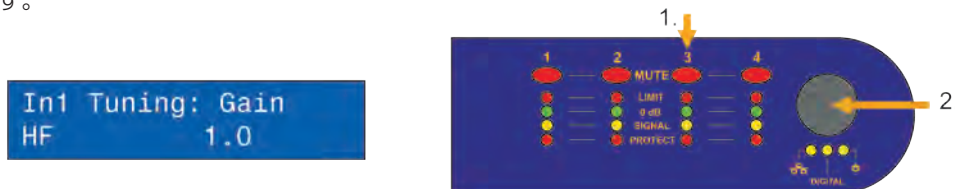
エンコーダーを回して「4: TUNING 1」にカーソルを合わせます。



エンコーダーノブを押してチューニングページを開きます。



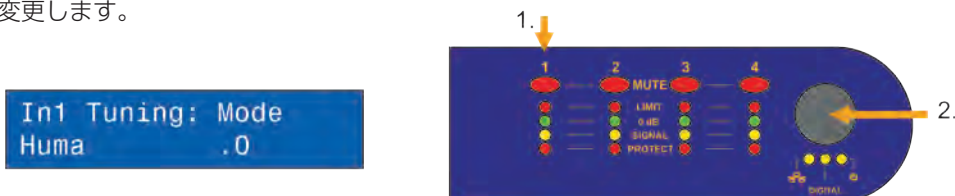
チャンネル 3 のチャンネルミュートボタン (1) を押しながら、エンコーダーノブ (2) を回してゲイン値を変更します。



この例ではチャンネル 1 の HF を選択し、ゲイン値を +1.0dB に設定しています。

チューニングツールの変更方法：

チャンネル 1 のチャンネルミュートボタン (1) を押しながら、エンコーダーノブ (2) を回してチューニングツールを変更します。



この例ではチャンネル 1 の選択モードを有効にし、Human を選択しています。



チューニングツールの概要

In1 Tuning: HF-Shelf HF .0	HF-Shelf (高域シェルフ) (周波数 / Q 固定)
In1 Tuning: Human Huma .0	Human (ヒューマンEQ) (周波数 / Q 固定)
In1 Tuning: LowBoost LowB .0	LowBoost (低域シェルフ) (周波数 / Q 固定)
In1 Tuning: SubSonic SubS .0	SubSonic (サブソニックフィルター) (周波数 / Q 固定)
In1 Tuning: Distance Dist .0	Distance (距離) - 高域の空気吸収補正
In1 Tuning: PEQ1 PEQ1 1000 .0 3.0	PEQ (パラメトリックEQ) - 自由に設定可能 (4 系統装備)
In1 Tuning: Array ARR. 8	Array (アレイ機能) - ラインアレイ長の調整 (ラインアレイ専用)
In1 Tuning: Sizing SIZE 1.0	Sizing (サイズ調整) - システムサイズを仮想的に増減

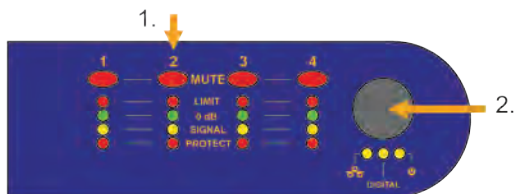
6. チューニング 2

パラメトリック EQ の設定

- 周波数の設定

チャンネル 2 のチャンネルミュートボタン (1) を押しながら、エンコーダーノブ (2) を回して周波数を変更します。

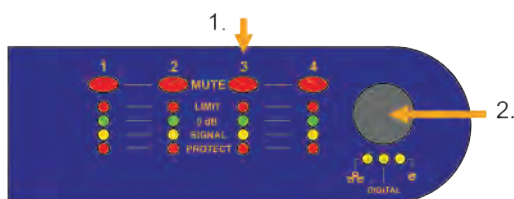
```
In1 Tuning: Freq
PEQ1 1000 .0 3.0
```



- ゲインの選択

チャンネル 3 のチャンネルミュートボタン (1) を押しながら、エンコーダーノブ (2) を回してゲイン値を変更します。

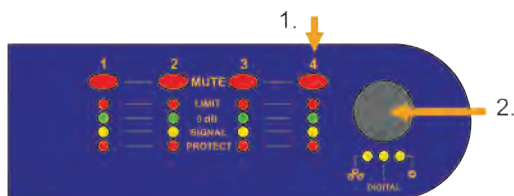
```
In1 Tuning: Gain
PEQ1 1000 .0 3.0
```



- Q の選択

チャンネル 4 のチャンネルミュートボタン (1) を押しながら、エンコーダーノブ (2) を回して Q を変更します。

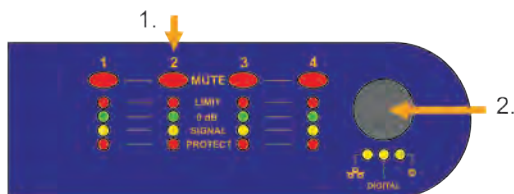
```
In1 Tuning: Quality
PEQ1 1000 .0 3.0
```



アレイ機能

チャンネル 2 のチャンネルミュートボタン (1) を押しながら、エンコーダーノブ (2) を回してアレイ数を変更します。

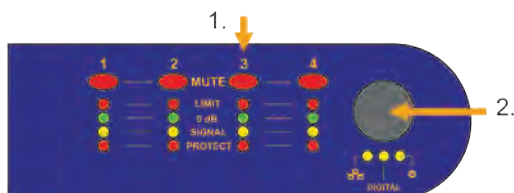
```
In1 Tuning: Count
ARR. 8
```



サイズ調整

チャンネル 3 のチャンネルミュートボタン (1) を押しながら、エンコーダーノブ (2) を回してシステムサイズを仮想的に変更します。

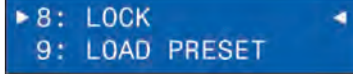
```
In1 Tuning: Gain
SIZE 1.0
```



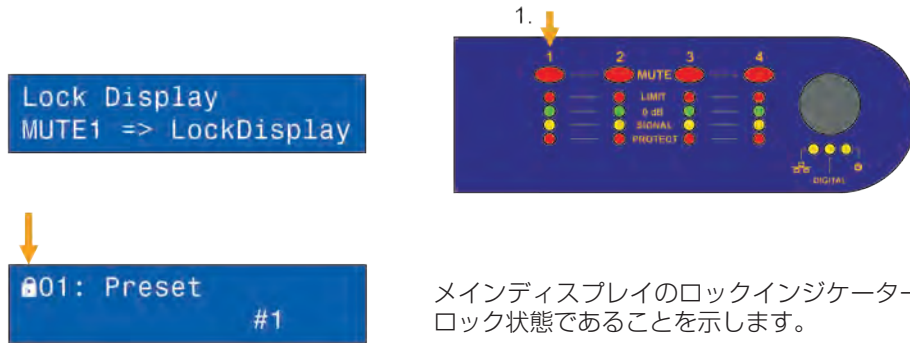


7. ディスプレイのロック

エンコーダーを回して「8：LOCK」にカーソルを合わせます。



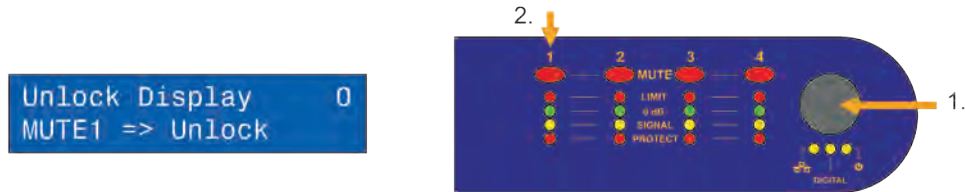
チャンネル1のチャンネルミュートボタン(1)を押して、ディスプレイをロックします。



メインディスプレイのロックインジケータは、ディスプレイがロック状態であることを示します。

ディスプレイのロックを解除するには、エンコーダーを回して「8：LOCK」にカーソルを合わせます。

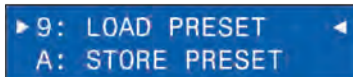
エンコーダーノブ(1)を回してパスワードを入力し、チャンネル1のチャンネルミュートボタン(2)を長押しするとディスプレイのロックが解除されます。



ディスプレイのロックを解除するためのパスワードはメーカーによって設定されています。

8. プリセットの選択

エンコーダーを回して「9：LOAD PRESET」にカーソルを合わせます。



エンコーダーノブを押してプリセット選択ページを開きます。

エンコーダーノブ(1)を回してプリセットを選択し、エンコーダーノブ(1)を4秒間長押しして選択を確定します。



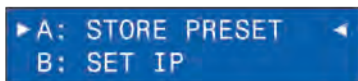
LINUS LIVE にアンプを接続したことがある場合、最初にグループパラメータをクリアする必要があります。上記のプリセット選択手順を繰り返してグループをクリアします。



LINUS 5-C/10-C

9. プリセットの保存

エンコーダーを回して「A: STORE PRESET」にカーソルを合わせます。



エンコーダーノブを押してプリセット保存ページを開きます。

エンコーダーノブ (1) を回して保存するプリセット番号を選択し、エンコーダーノブ (1) を 4 秒間長押しすると保存されます。

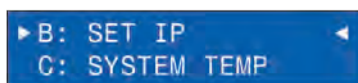


※ヒント:

プリセット番号 1 ~ 20 はユーザープリセットで、カスタマイズしたユーザープリセットの保存に使用できます。プリセット名は変更できません (変更には Preset Builder が必要です)。

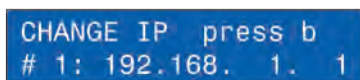
10. IP の設定

エンコーダーを回して「B: SET IP」にカーソルを合わせます。



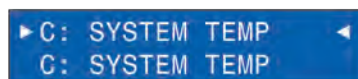
エンコーダーノブを押して IP アドレス設定ページを開きます。

エンコーダーノブ (1) を回してモジュール番号を選択 (IP アドレスを変更) します。エンコーダーノブ (1) を 4 秒間長押しして確定します。



11. システム温度

エンコーダーを回して「C: SYSTEM TEMP」にカーソルを合わせます。



エンコーダーノブを押してモジュール温度ページを開きます。





12. バックライト

エンコーダーを回して「D：BACKLIGHT」にカーソルを合わせます。



エンコーダーノブを押してバックライト設定ページを開きます。

エンコーダーノブ (1) を回して常時点灯または自動消灯 (25 秒後) を選択します。

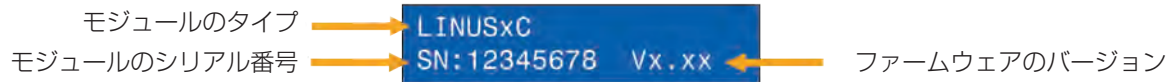


13. 情報

エンコーダーを回して「E：INFO」にカーソルを合わせます。



エンコーダーノブを押して情報ページを開きます。





LINUS LIVE

LINUS LIVE リモートソフトウェア

LINUS システムとは？

原則：

- ・ LINUS システムでは最大 75 モジュールまで管理可能（拡張予定あり）
- ・ 各モジュールは 4 チャンネル単位
- ・ 各ユニットはモジュールナンバー及び実際のラック内の設置位置により認識されます。
- ・ 全てのユニットにはそれぞれのモジュールナンバーに沿った IP アドレスが付与されます。
- ・ LINUS10 を 4ch のモジュールとしてシステムに反映させるには、全てのラックにおいて上側（Ch1+Ch2）と下側（Ch3+Ch4）のユニットの組み合わせ、すなわち 2 台ずつの運用が必要です。





1. LINUS Live の設定

1.1. 各ラックのモジュールナンバーを設定します。

A - LINUS CON : ディスプレイ上にモジュールナンバーが表示されています。

B - LINUS 10 : 上側のユニットを Master (Ch1+2)、下側のユニットを SLAVE (Ch3+4) に設定してからモジュールナンバーを設定します。(IP アドレスは自動で設定されます)

1.2. 全ての機器を Ethernet 経由で接続し、同じく Ethernet で Windows PC / MAC に接続します。

1.3. コンピューターの Ethernet デバイスを以下の設定に合わせてください。

IP アドレス : 192.168.1.xx (最後のナンバーは 20、30、40...90)

サブネットマスク : 255.255.0.0

※重要 : システム管理者がネットワークのインフラに精通していれば、W-LAN の使用やネットワーク上でその他の機器と組み合わせることも可能です。

1.4. LINUS LIVE を起動し、全ての機器と接続します。

- a) ソフトウェアが正しい LINUS システムを認識すれば、自動で LINUS システムの Restore(再構築)を実行します。ユーザーはこの再構築されたシステムをそのまま使うか、もしくは全てのシステム情報を削除して空の状態のシステムから「add」ファンクションで始めることも可能です。
- システム管理者が認識されたシステムのみを Restore(再構築)することをお勧めします。認識されていないシステムであれば、「add」ファンクションで新しくシステム構築することをおすすめします。



- b) 画面上に既にシステムが表示されているとして、LINUS LIVE はまずシステム内の全てのモジュールを検索します。それにより LINUS LIVE 上の情報と接続されているモジュール機器が一致するかどうかを検証し、もし一致しなかった場合はモジュールリスト内の不一致を解決してください。この時モジュールナンバー、モジュールのタイプとナンバーは適合していれば、表示データからモジュールへ同期が可能です。(重要 : モジュールのタイプとナンバーは適合していなければなりません)
- c) オフライン状態で作成したシステムの保存・ロードが可能であり、ネットワーク上の接続した機器に反映させることが可能です。(ここでもモジュールのタイプとナンバーは適合していなければなりません)



LINUS モジュールをアップデートする必要があるときは、LINUS Live が「Device Scan」 ウィンドウで情報を提供します。

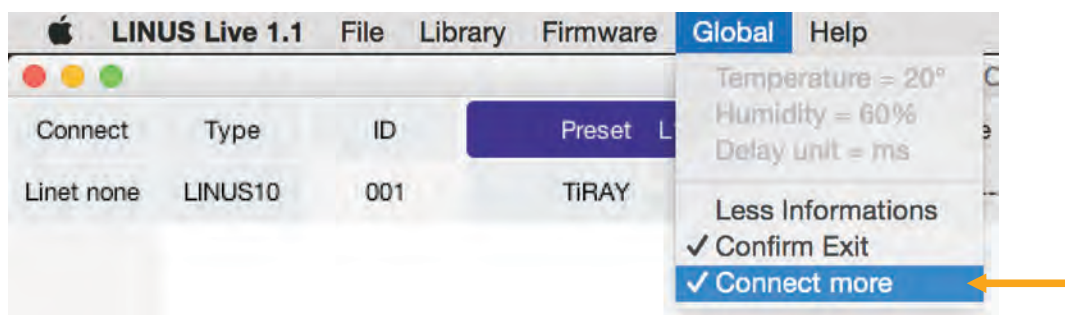
1.Firmware Update の場合

#1	#2	Update FW #3	Update FW #4
Update FW #5	Update FW #6	#7	#8
#9	#10	#11	#12
#13	#14	#15	#16
#17	#18	#19	#20
#21	#22	#23	#24

1.Library Update の場合

#1	#2	Update Lib1.1 #3	Update Lib1.1 #4
Update Lib1.1 #5	Update Lib1.1 #6	#7	#8
#9	#10	#11	#12
#13	#14	#15	#16
#17	#18	#19	#20
#21	#22	#23	#24

初期の設定では LINUS Live が 25 個のモジュールをスキャンします (25 モジュールまでのシステムでは、こちらのほうが早い接続が可能です)。システムのモジュールを 26 以上 (75 まで) 使用する場合は、スキャンを開始する前に「Connect More」ファンクションを起動させる必要があります。



2. LINUS LIVE システムの画面概要

The screenshot shows the LINUS LIVE system overview interface. At the top, there is a table with columns: Online, Type, ID, Preset (L1.2), Firmware (V x52), Name, Routing / Mute, Out meter, Gain, Delay, and Reserve. Below the table, there are control buttons: Add Module, Add Group, Remove, Night Mode, Identify, Setup, Tune, and Monitor. A diagram titled "LINUS Hardware" shows three rack units connected to a central processing unit. The diagram includes labels for "Group 01...99" and "Module 01... 99". A blue arrow points from the "Setup" button to the next screen.

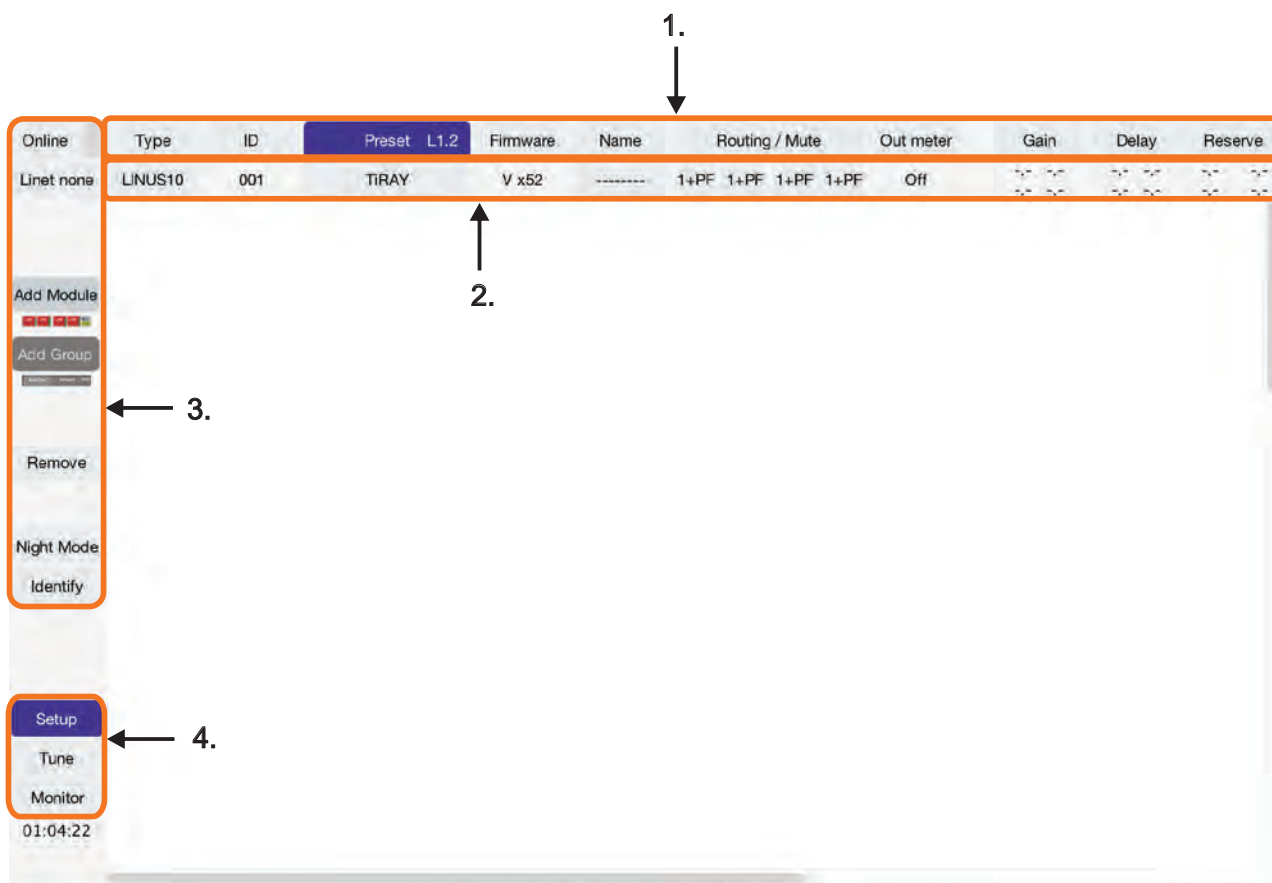
LINUS LIVE - 設定画面スペース

The screenshot shows the LINUS LIVE configuration screen. At the top, there is a table with columns: Online, Type, ID, Preset (L1.2), Firmware (V x52), Name, Routing / Mute, Out meter, Gain, Delay, and Reserve. Below the table, there is a detailed routing table with columns: Mute, Left, ID, Mute, Name, ID, Mute, Right, ID. The routing table shows connections between various modules like SC2x100, AIRAY-F-90deg, and SCP-Omni70. Below the routing table, there is an EQ graph with a frequency response curve. The graph has a y-axis for Gain (from -1.5 to 1.5) and an x-axis for frequency (from 20 to 20k). The graph is labeled "AiRAY_Sys". To the right of the graph, there are controls for EQ1, EQ2, EQ3, and EQ4, each with a gain of 0.0 dB and a frequency of 1000 Hz. Below the EQ controls, there are controls for Distance (0.0 m), Sizing (1.0 x), SubSonic (-4.0 dB), LowBoost (-1.0 dB), and Human (1.0 dB), HF Shelf (1.0 dB). A blue arrow points from the "Setup" button in the previous screen to the "Tune" button in this screen.

File safe xxx.linuslive

3. 画面表示

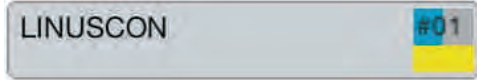
1. View ボタン
2. 各 View ボタンに対応した操作ボタン
3. 操作可能な機能のボタン
4. モード切替ボタン



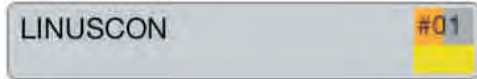


4. モジュールの状況

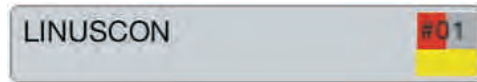
LINUS CON



青：
オンライン、通常動作



オレンジ：
モジュールがネットワークから切り離された (LAN 環境によりしばしば発生することがあります)。同期させるにはオレンジのフラグをクリックしてください。



赤：
モジュールがネットワークにつながっていない。

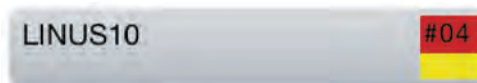
LINUS 10 モジュール (LINUS RACK 20)



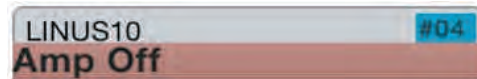
青：
オンライン、通常動作



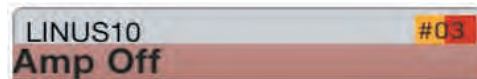
オレンジ：
モジュールがネットワークから切り離された (LAN 環境によりしばしば発生することがあります)。同期させるにはオレンジのフラグをクリックしてください。



赤：
モジュールがネットワークにつながっていない。



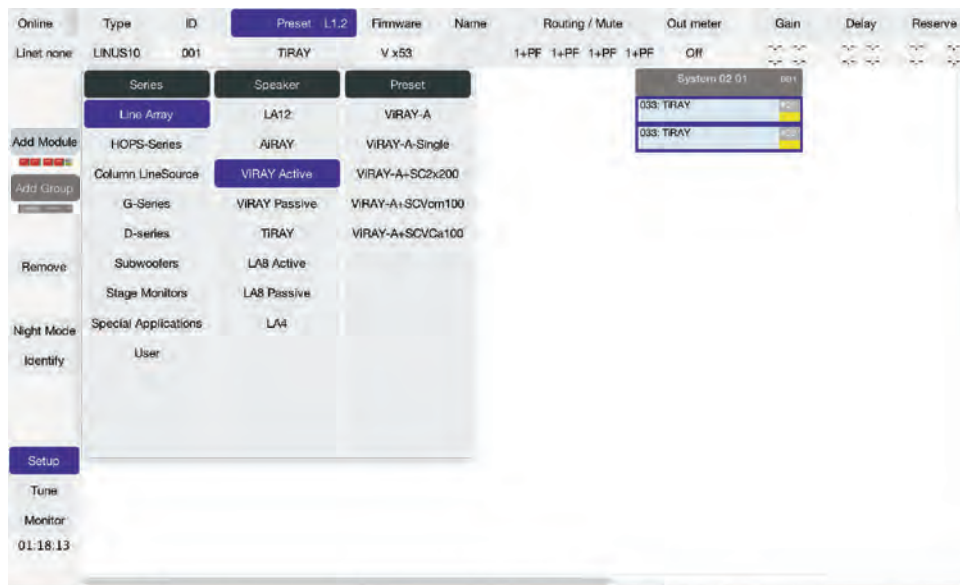
アンプがスタンバイモードになっている (電源スイッチが ON になっていない)。



スレーブのアンプがネットワークに存在しない。

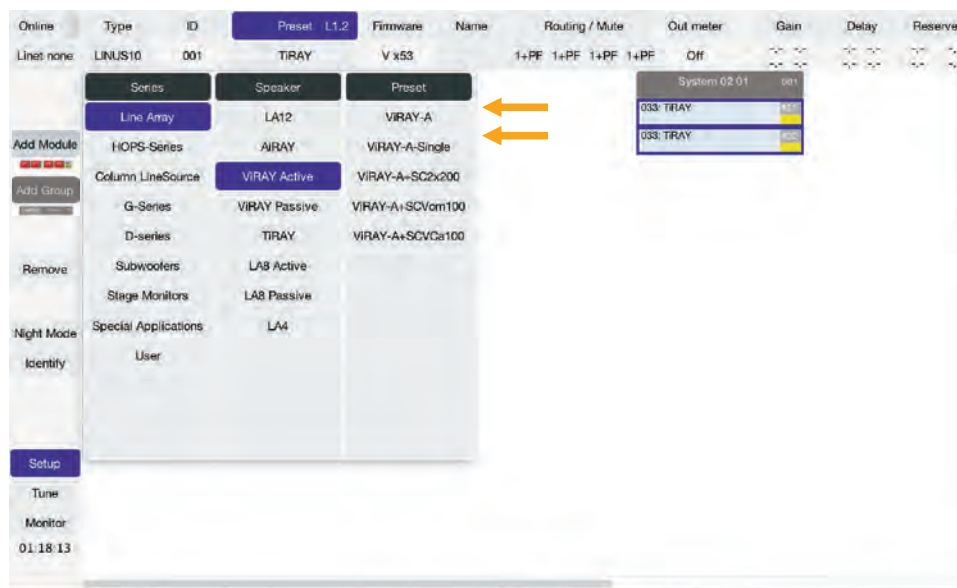


5. プリセットの構造について



選択するプリセットは大きく以下の2つのタイプに分類されます。

- ・アレイ用途
- ・シングル用途



注意：さまざまなシステムの組み合わせに応じたタイムアライメントがあります。

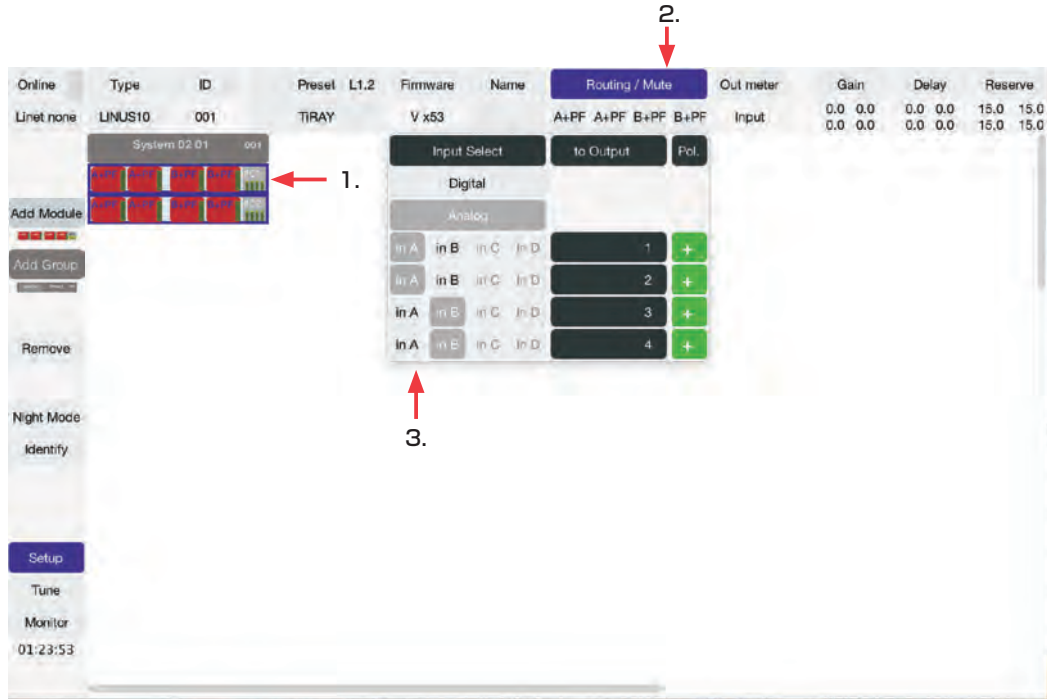
Subs	SC8		SCP (or SCV)	
	Cardio70	Cardio100	Omni70	Omni100
AiRAY / SC2	NR	NR	7,1ms	NR
LA12 / SC3	0,9ms	NR	0ms	NR
ViRAY / SC2	NR	0ms	NR	0ms
LA8 / LA8 SUB	NR	0,8ms	NR	0ms
TiRAY / TiLOW	NR	NR	NR	0ms

表は LIUS Live ソフトウェアと同時にダウンロードされます。pdf ファイルタイトルに、Time Alignment と表示されています。



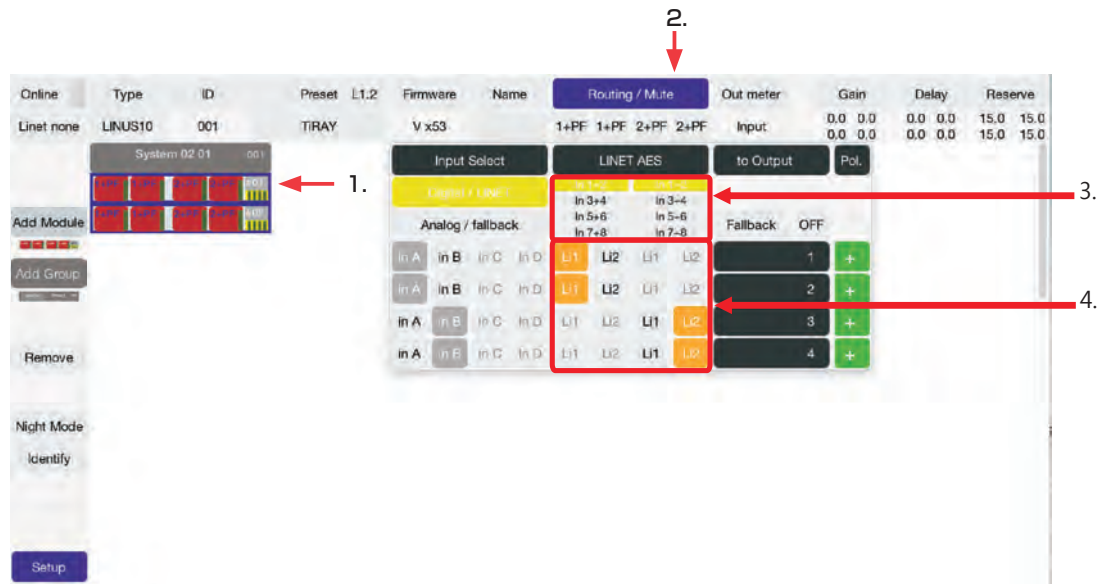
6. ルーティング設定

アナログ音声入力選択とチャンネルルーティング



1. モジュールをクリックして選択します。
2. Routing view ボタンを押します。
3. マトリクス上のアナログ入力チャンネルを選択します。

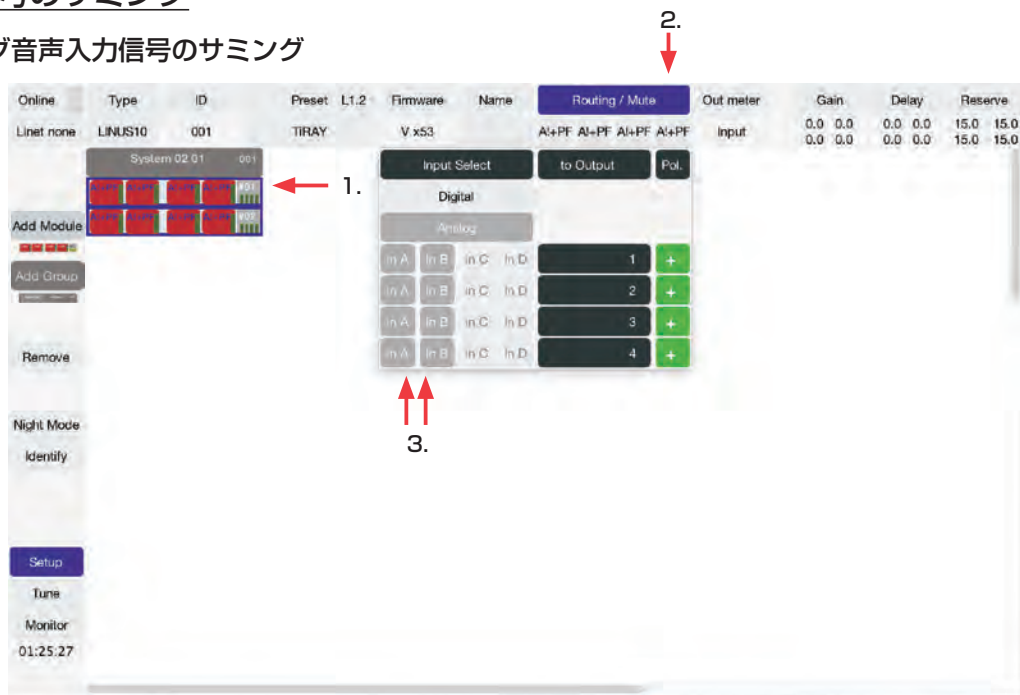
LiNET (Digital) Audio 入力選択とチャンネルルーティング



1. モジュールを選択します。
2. Routing view ボタンを押します。
3. LiNET ハードウェア入力チャンネルペアを選択します。
4. マトリクス上の LiNET 入力チャンネルを選択します。

7. 信号のサミング

アナログ音声入力信号のサミング

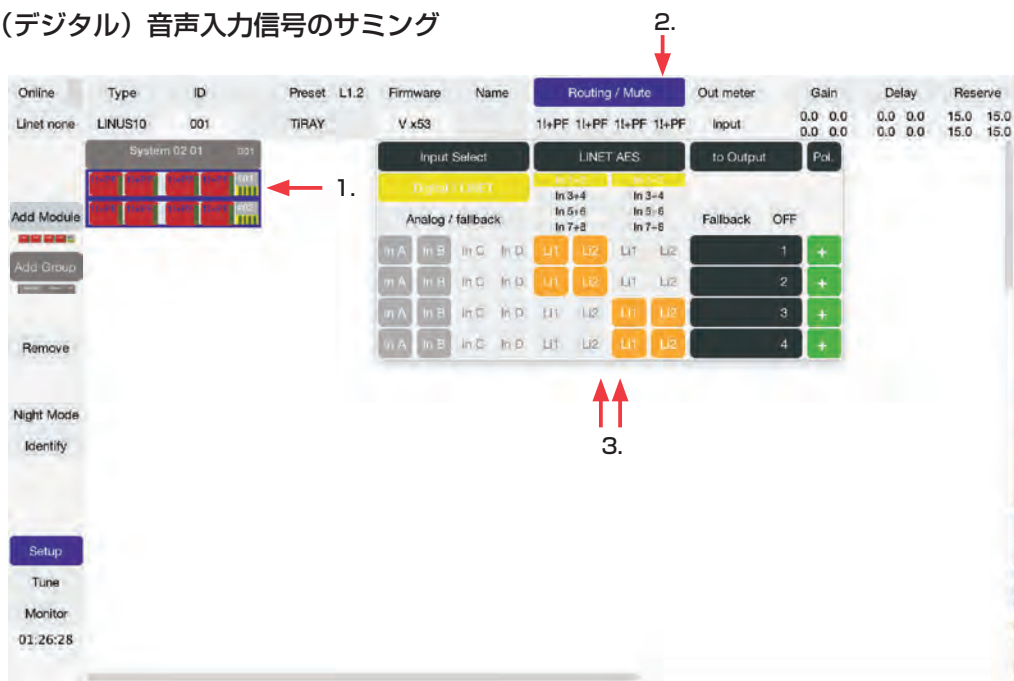


1. モジュールを選択します。
2. 「Routing view」 ボタンを押します。
3. マトリクスでアナログ入力チャンネルを選択し、元のソース信号に入力信号チャンネルを追加します。

※注意：2つの入力信号をサミングするとゲインが **+6dB 上がります**。信号ソースからのゲイン構造が適切か確認してください。

アナログ入力はモジュール内ではグレーで表示されます。

LiNET (デジタル) 音声入力信号のサミング



1. モジュールを選択します。
2. 「Routing view」 ボタンを押します。
3. マトリクスで LiNET 入力チャンネルを選択し、元のソース信号に入力信号チャンネルを追加します。

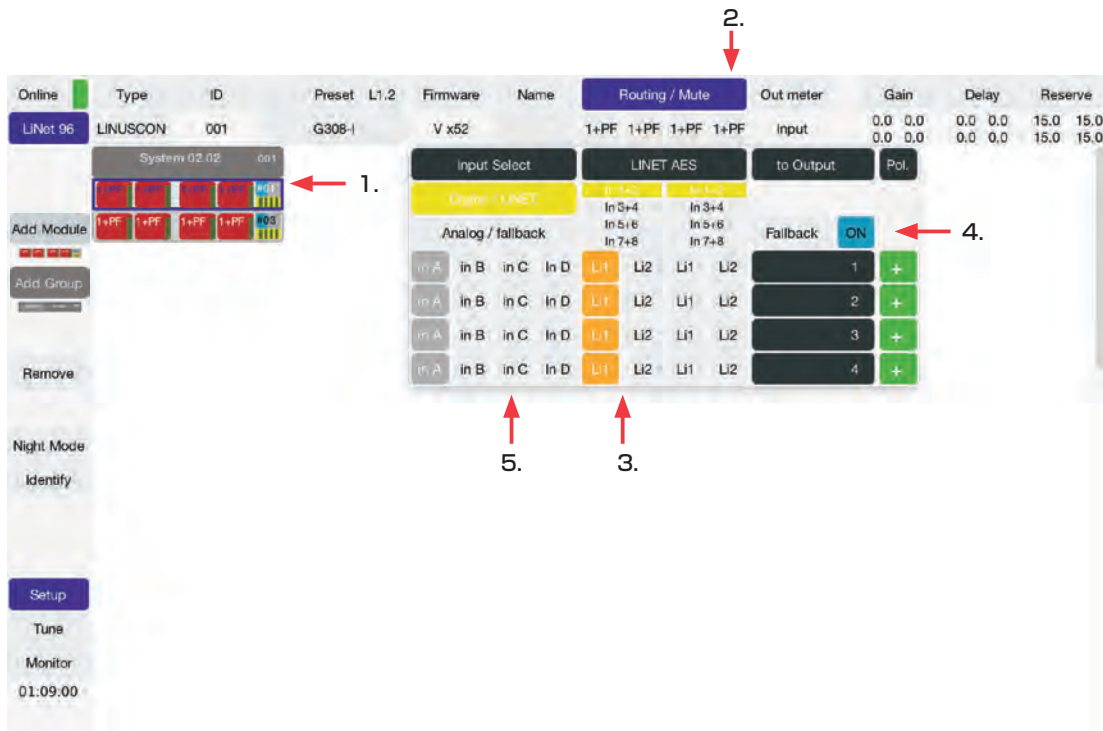
※注意：2つの入力信号をサミングするとゲインが **+6dB 上がります**。信号ソースからのゲイン構造が適切か確認してください。

LiNET (デジタル) 入力はモジュール内ではライムグリーンで表示されます。



8.1. アナログフォールバック

LiNET フォールバック機能のためのアナログ音声入力選択とチャンネルルーティング

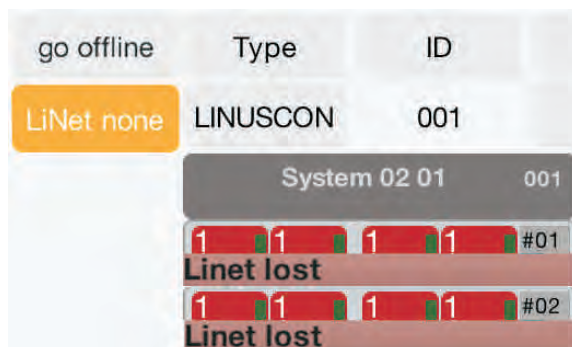


1. モジュールを選択します。
2. Routing view ボタンを押します。
3. マトリクスで LiNET 入力チャンネルを選択します。
4. フォールバックの設定を ON に切り替えます。
5. アナログ入力のマトリクス上でアナログフォールバックチャンネルを選択します。

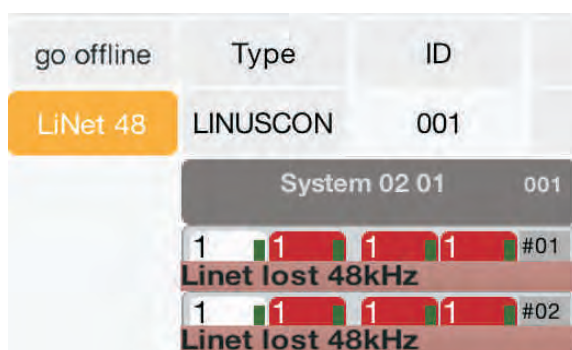
8.2. LiNET のアイコンの概要 (画面左上のアイコン)

Linnet none	すべてのモジュールがアナログ入力
LiNet 48	すべてのモジュールが LiNET (デジタル) 入力 48kHz サンプリングレート
LiNet 96	すべてのモジュールが LiNET (デジタル) 入力 96kHz サンプリングレート
LiNet some	LiNET (デジタル) 入力とアナログ入力のモジュールが混在
LiNet 96	全てのモジュールが LiNET (デジタル) 入力が選択されており、少なくとも一つのモジュールでアナログフォールバックが有効になっている。(LiNET 入力は 96kHz のサンプリングレートに固定)
LiNet none	LiNET で運用している全てのモジュールでクロックが失効している。影響を受けたユニットはアナログへフォールバックしている。
LiNet 48	複数のモジュールでアナログフォールバックが有効になっている。全てのモジュールに LiNET (デジタル) のクロックが検出されている。(48kHz のクロックを検出)
LiNet some	システムはアナログフォールバックで動作しており、LiNET (デジタル) のクロックがいくつかのモジュールで検出されている。

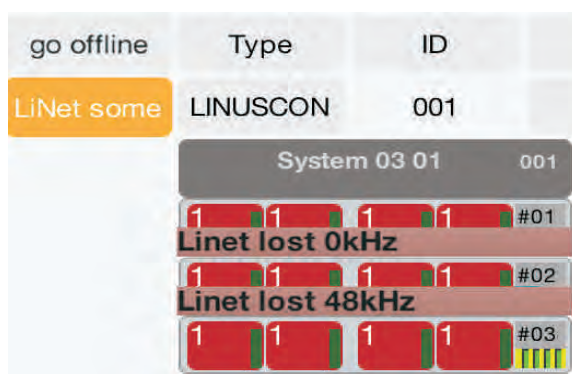
8.3.LiNET のアイコン フォールバックの例



LiNET で運用している全てのモジュールでクロックが失効している。影響を受けたユニットはアナログへフォールバックしている。



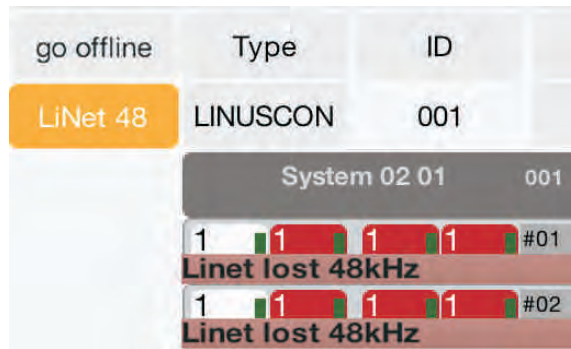
複数のモジュールでアナログフォールバックが有効になっている。全てのモジュールに LiNET(デジタル)のクロックが検出されている。(48kHzのクロックを検出)



システムはアナログフォールバックで動作しており、LiNET(デジタル)のクロックがいくつかのモジュールで検出されている。



8.4.LiNET のアイコン 操作

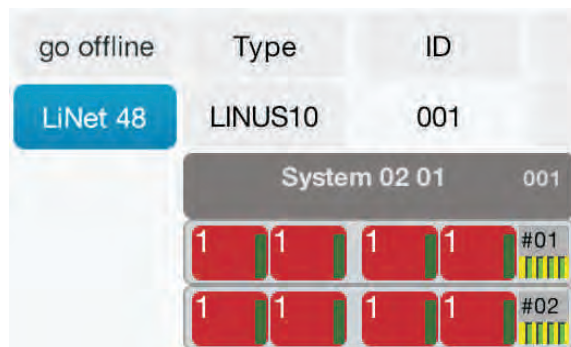
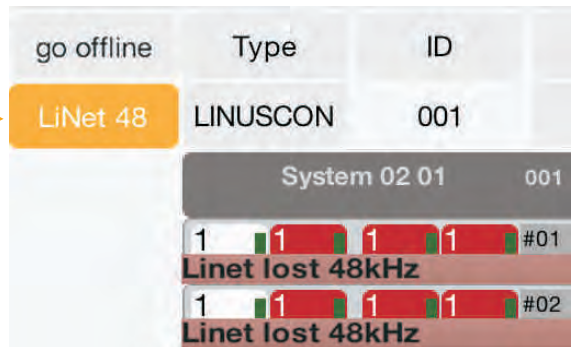


システムが既定のサンプルレートの安定した LiNET(デジタル) 音声入力を検出した場合、アナログフォールバックから LiNET 入力へ戻すことができます。

事前を選択された LiNET チャンネルのルーティングは LiNET 入力へ戻しても変更できません。

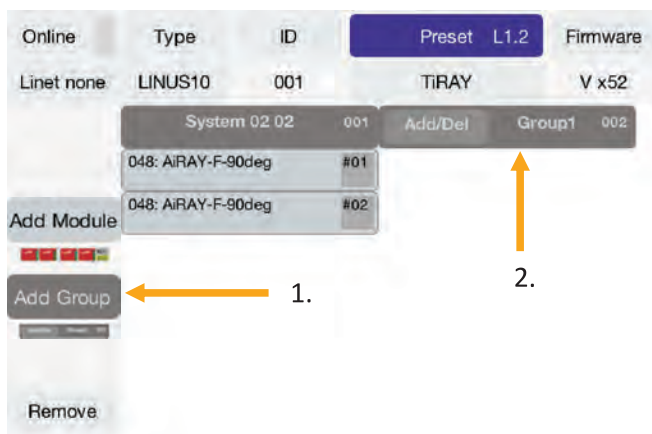
アナログへフォールバックから LiNET への戻し方

LiNET アイコンを
押す

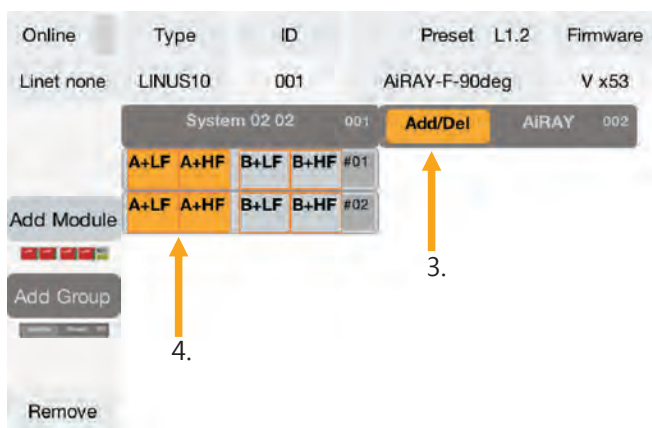


システムがすべて LiNET(デジタル) 音声入力で作動しており、アナログフォールバックのオプションが有効になっている。(LiNET 入力が 48kHz のサンプリングレートで固定)

9. Group の編集

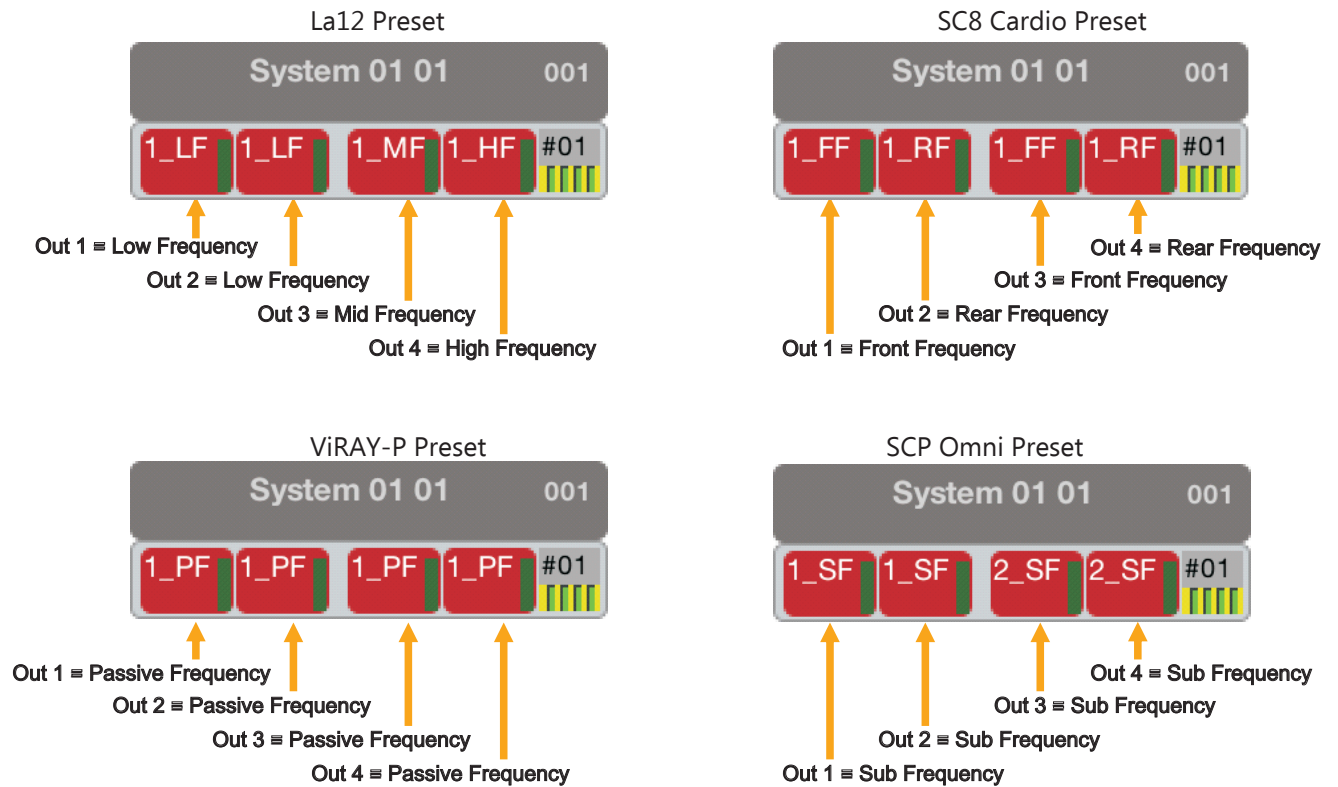


1. “ Add Group ” ボタンを押します。
2. グループに名前を付けます。



3. “ Add/Del ” ボタンを押します。
4. 矢印のチャンネルをグループ化。出力チャンネルは、プリセットの内容により各々定義されます。

10. モジュールの出力 グループ機能配列



各概要の説明：

PF = Passive Frequency :
パッシブモードのプリセット

LF = Low Frequency :
バイアンプのキャビネットに使用します。もしくは TiLOW、SC2-F の様な Bass Extension。

MF=Mid Frequency :
AIRLINE LA12 のミッドレンジの周波数帯に使用します。

HF=High Frequency
AIRLINE LA12 もしくはバイアンプのキャビネットに使用します。

SF = Sub Frequency
オムニモードのサブウーファーに使用します。

FF = Front Frequency
カーディオイドモードのサブウーファーのフロント側スピーカーに使用します。

RF = Rear Frequency
カーディオイドモードのサブウーファーのリア側スピーカーに使用します。

11.メーターインジケーション

1. 通常

モジュールは通常稼働しており、リミットもゲインリダクションもない状態。



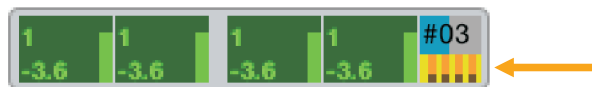
2. ゲインリダクション

内部リミッター設定により、ゲインリダクションが作動し、モジュールの右 / 下のほうにある 4 本のメーターが現れます。

0dB ~ 5dB のリダクションが緑のメーターで表示されます。



6dB のリダクションはオレンジのメーターで表示されます。



3. インプットメーター

黄色のインプットメーターは、-3dB ~ -0.6dB を表示します。



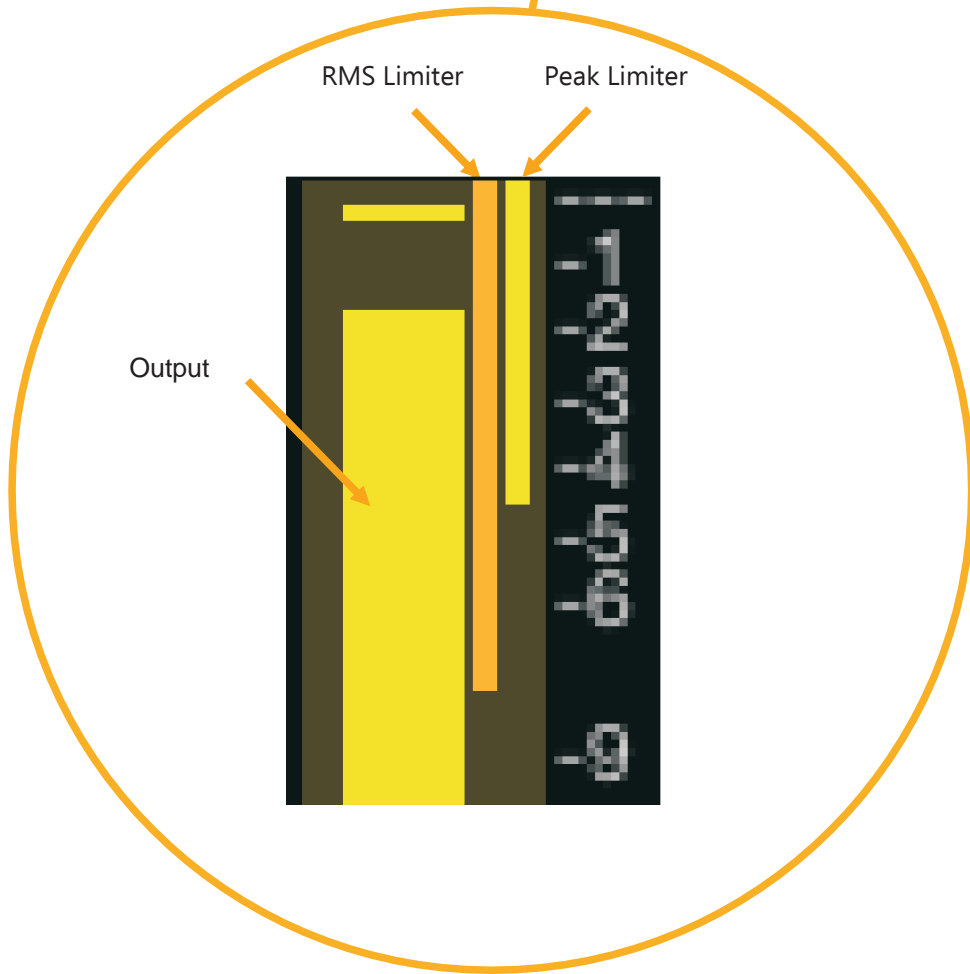
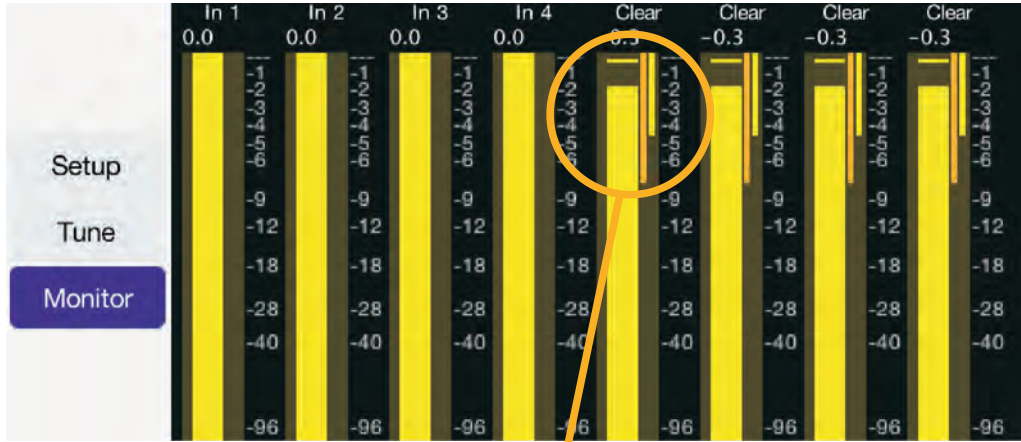
赤のインプットメーターリダクションは、-0.5dB を表示します。ゲインリダクションメーターのフルスケールは、9dB のゲインリダクションです。





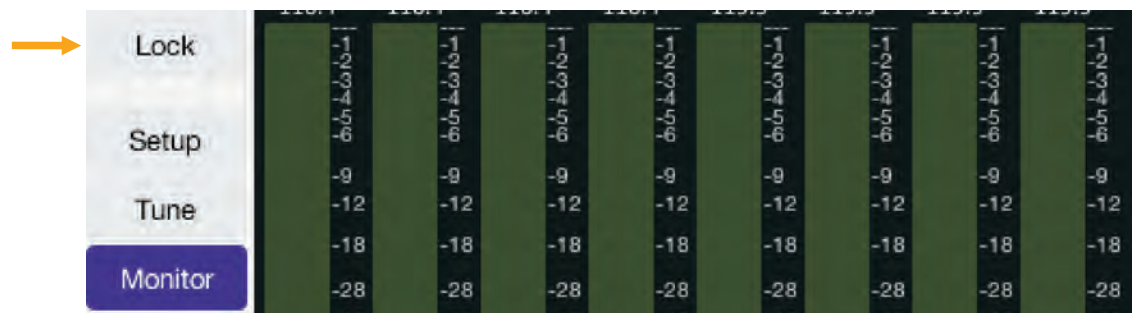
4. モニターインジケーション

RMS と Peak " Look Ahead " リミッター



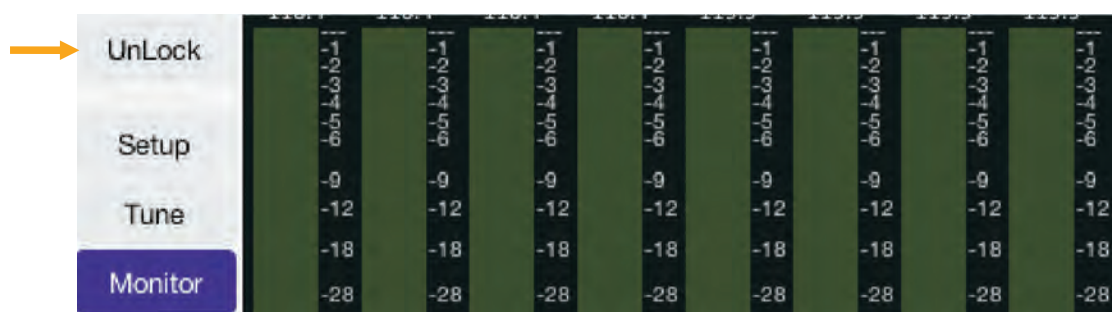
12. モニターモードロック

1. モニターモードに切り替え、モジュールを選択し、「Lock」ボタンを押します。

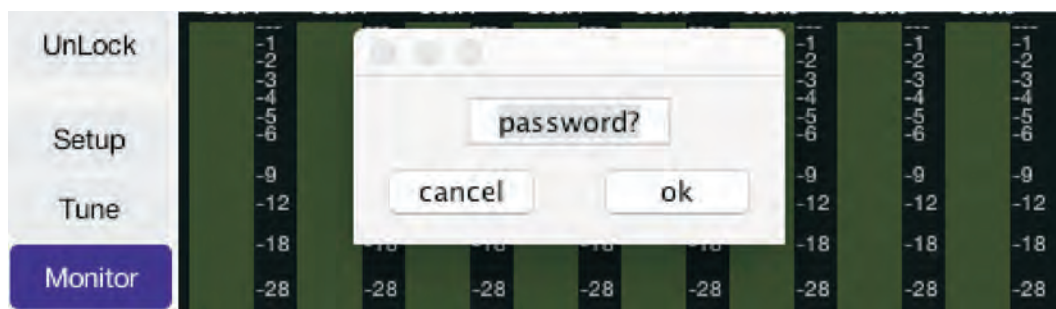


画面横のすべてのファンクションがロックされます。

2. モニターモードをアンロック
「Unlock」ボタンを押します。



パスワードを入力
password : VFHPD



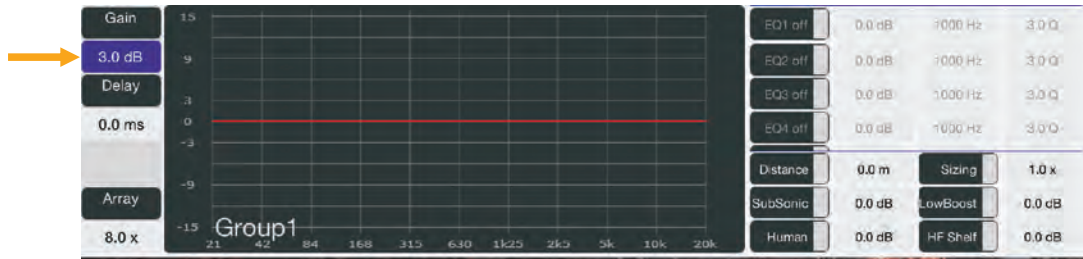
LINUS LIVE TUNING

LINUS システムのチューニング機能

1. ゲインレベル

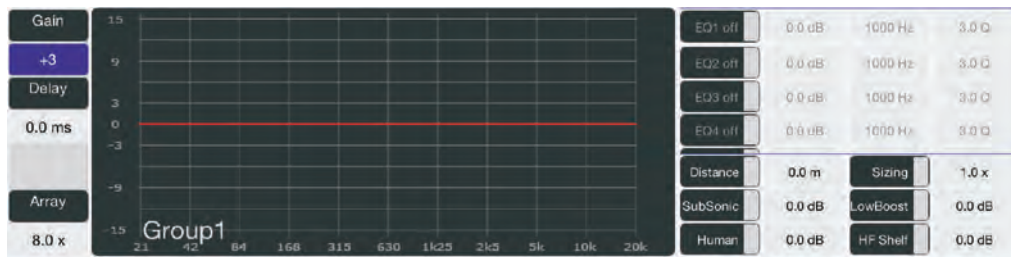
選択したシステムコンポーネント（グループ）のゲインレベルの調節を行います。

・ゲインは現場施設の構造や音楽のカテゴリによって異なります。



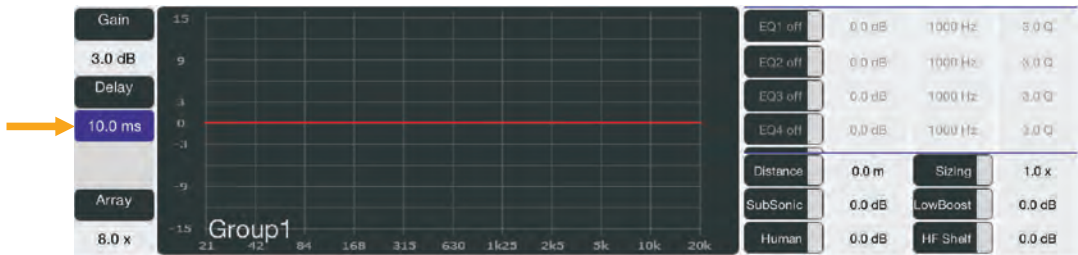
※重要 - 安全第一

ゲインを上げる際には “+3” と入力してください。"3" と入力した場合には、安全のため値がマイナス方向に動きます。



2. タイムアライメント

計測したディレイタイムを基に設定を行ってください。（または、別表の PDF ファイル Time Aligment 表を参考にしてください）

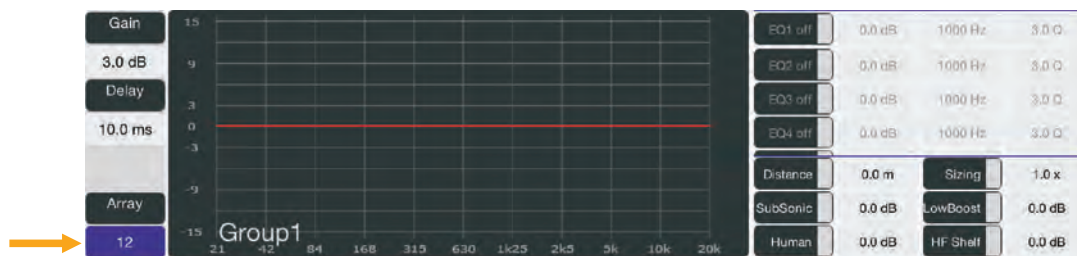


LINUS Live のタイムアライメント

Tops	Subs	SC8		SCP (or SCV)	
		Cardio70	Cardio100	Omni70	Omni100
AiRAY / SC2	NR	NR	NR	7,1ms	NR
LA12 / SC3	0,9ms	0ms	NR	6,5ms	NR
ViRAY / SC2	NR	NR	0,8ms	NR	7,8ms
LA8 / LA8 SUB	NR	NR	0ms	NR	6,4ms
TiRAY / TILOW	NR	NR	NR	NR	1ms

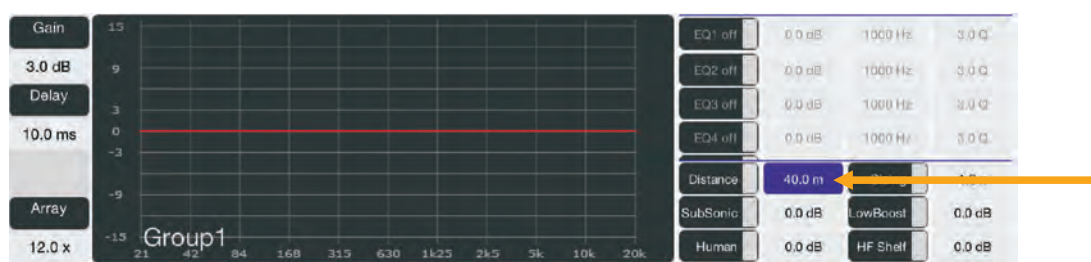
3. アレイ機能

ラインアレイ（1 アレイすべて）で使用するキャビネットの本数を入力してください。この機能は特定のプリセットでは使えない場合があります、またシステムグループでも使用できません。



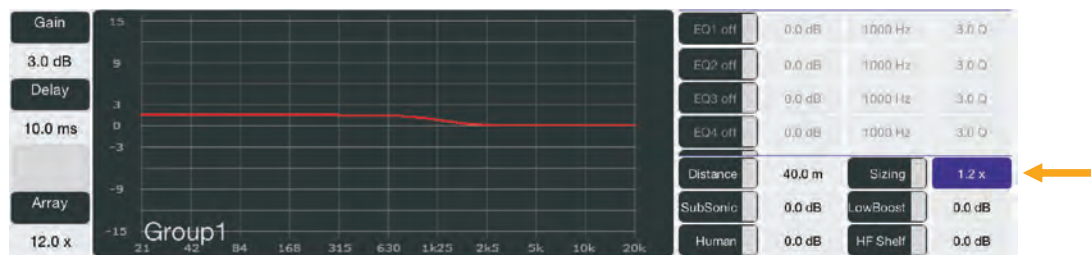
4. Distance (距離) 機能

空気吸収補正（遠距離を狙ったゾーンに適用できます。数十メートル程度では必要ありません）



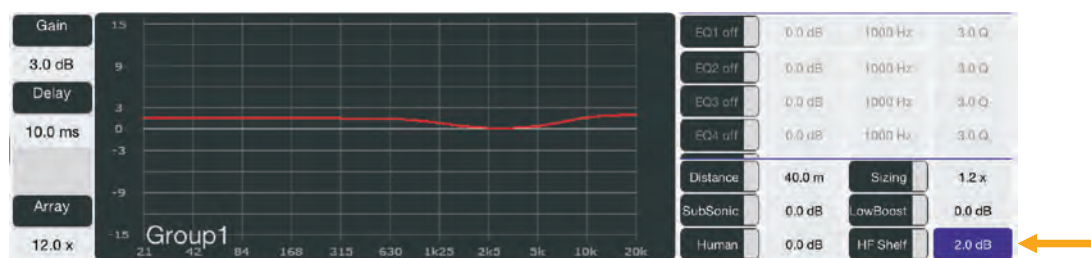
5. Sizing 機能

システムのサイズ調整を行いたい場合には、この Sizing の項目で疑似的にサイズ変更を行うことができます。



6. High Shelf フィルター

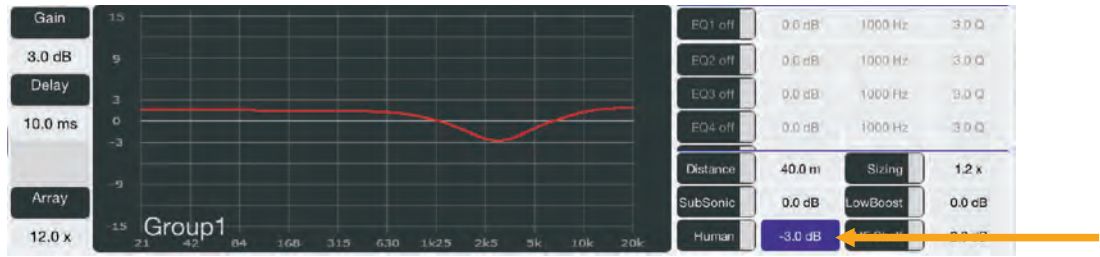
HF フィルターを調整することでラインアレイをゾーン別に調整したり、現場や施設における高周波数帯の修正に役立ちます。





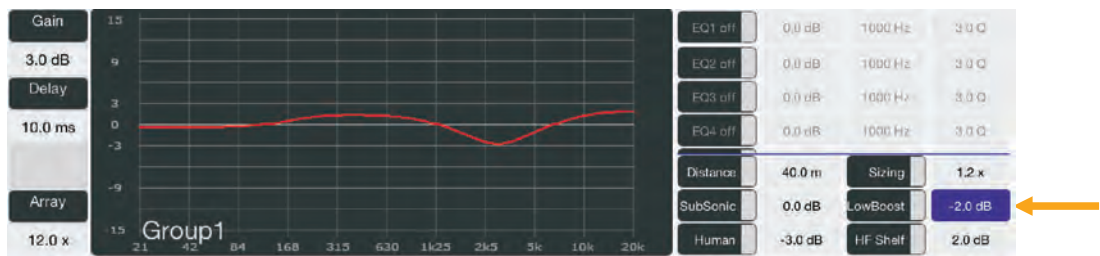
7. Human EQ 設定

この Human EQ 機能は非常に高いレベルの出力を必要とする現場において周波数特性を整える為の機能です。この項目の値が 0dB の際には周波数特性はフラットな状態であり、ほとんどの現場ではそれを推奨しますが、この EQ ゲインを上下させることによって聴感上のフラットな特性を感じさせられるようになります。



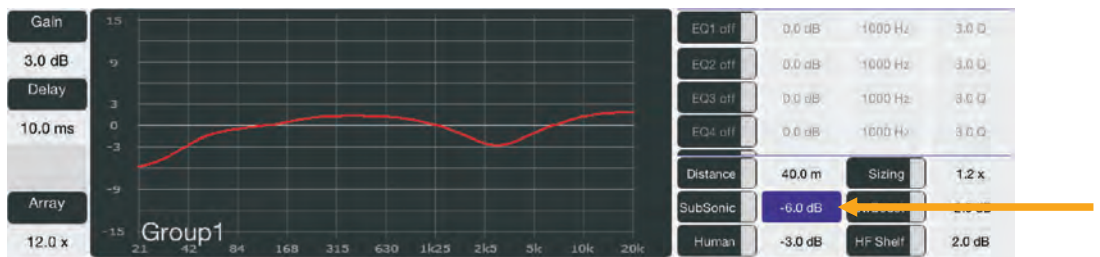
8. LowBoost

もしシステムの音が薄く感じたり、ローエンドが十分でない場合にはグループのローシェルフフィルターのゲインを上げてみてください。もしくは、聴感的にアンバランスでローエンドによる中高音域の情報をマスクしてしまっているようであれば、ゲインを下げてください。



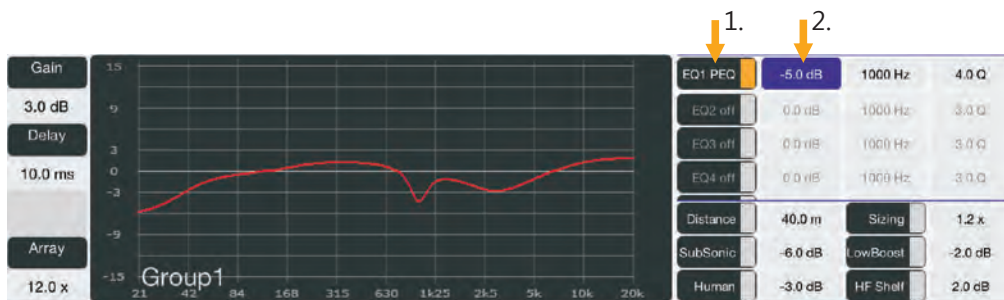
9. SubSonic

もし電源の配電が規制されたりブレーカーやヒューズが落ちた場合、超低域 (40Hz 以下) の再生を抑制してシステムの電流消費を減らすことができます。



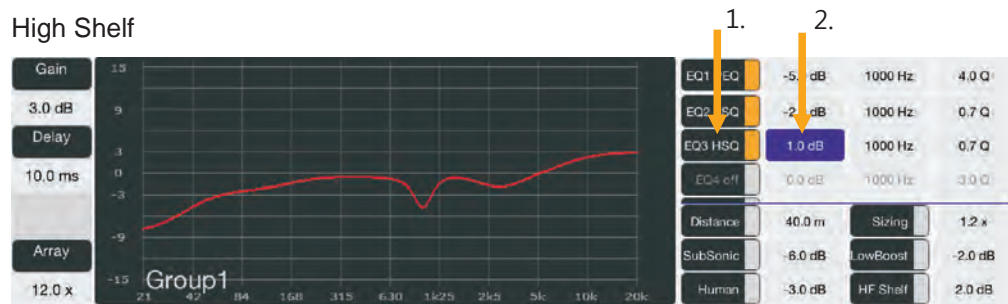
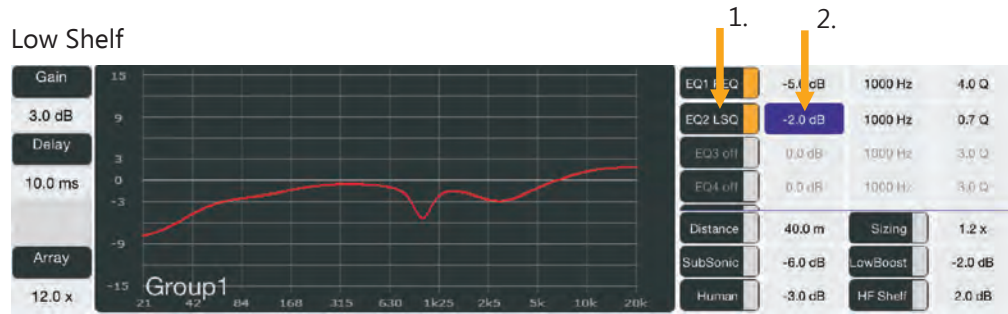
10. パラメトリック EQ

現場に合わせてシステムを最適化するための最大 7 系統のフルパラメトリック EQ が用意されています。



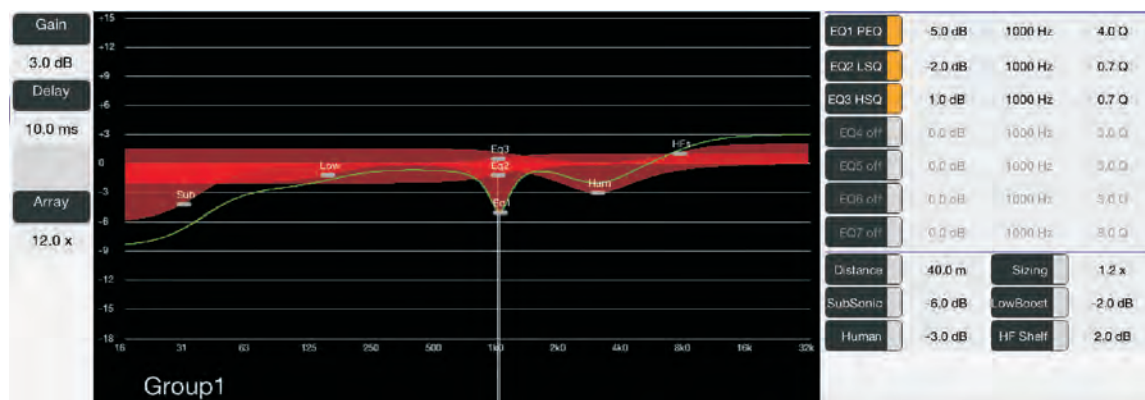
11. シェルビング EQ

自由に設定可能な高域／低域シェルビングフィルターを別途適用できます（シェルビングタイプはマウスの右クリックで設定します）。



12. フルスケールチューニングウィンドウ

チューニングモードで Linus Live のウィンドウを最大化すると、フルスケールチューニングウィンドウが表示され、パラメーターをグラフィカルに調整できます。

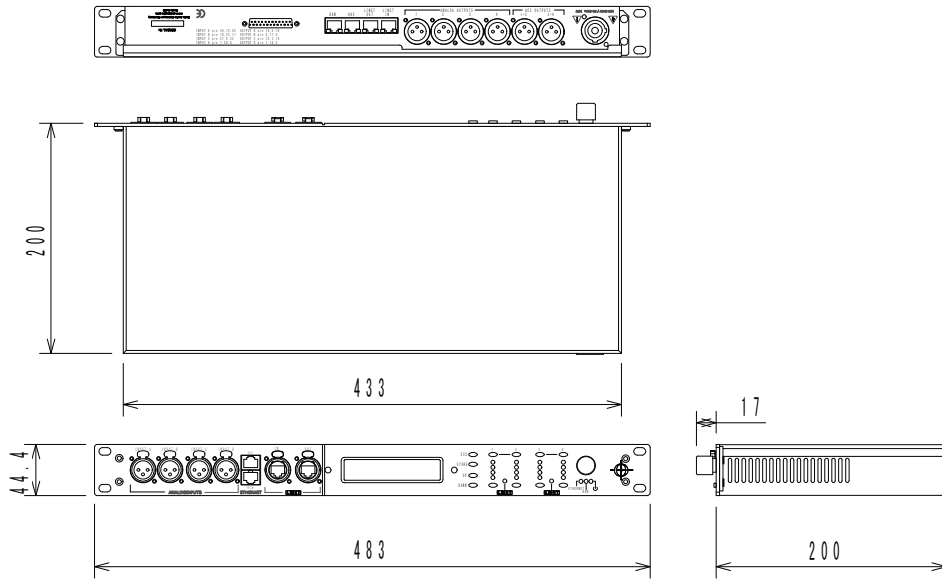


付録

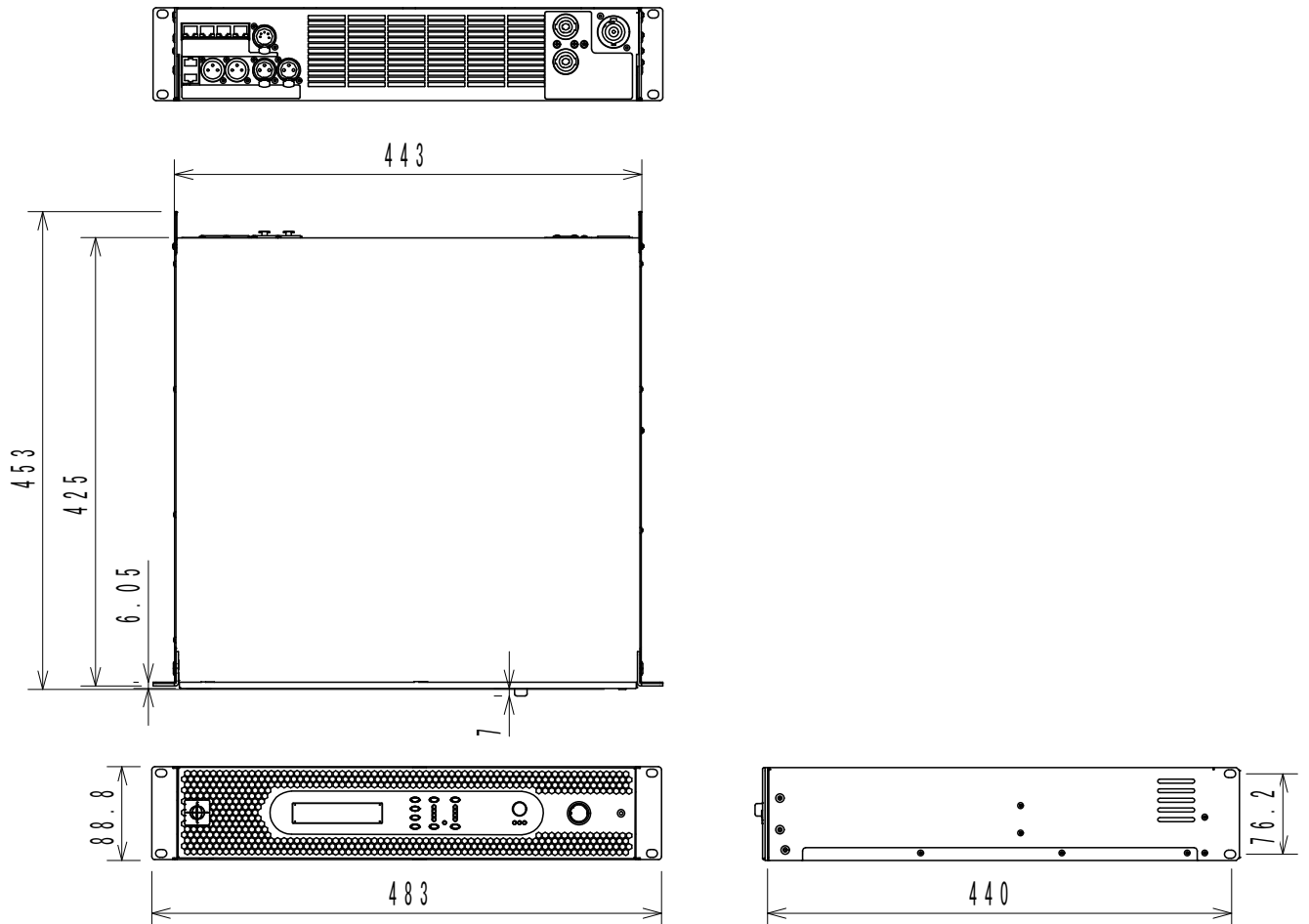
寸法図
スペック表



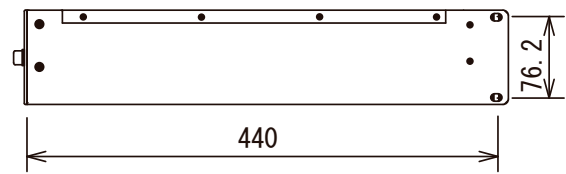
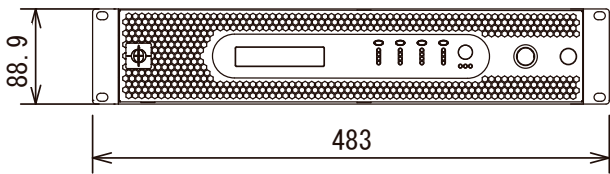
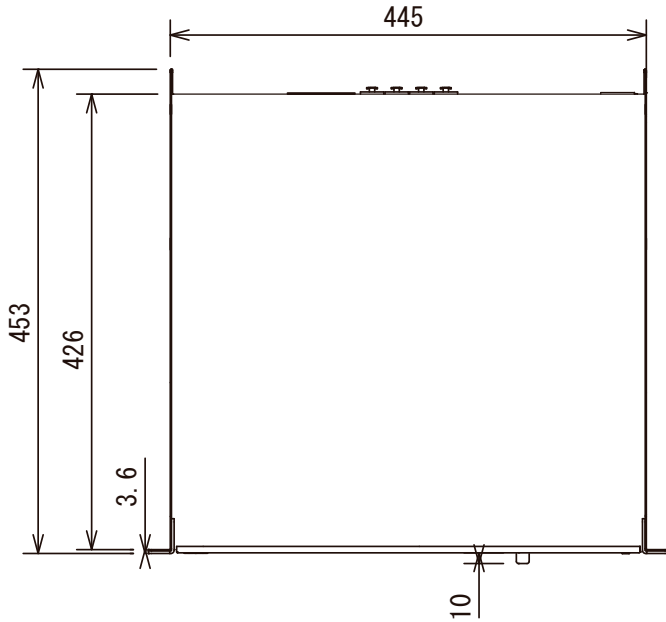
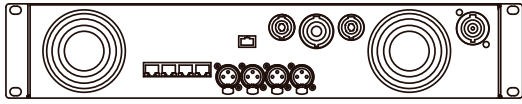
LINUS CON



LINUS 10



LINUS 5-C/10-C





仕様

		LINUS CON	LINUS 10
チャンネル		4in/4out 入力 (Analog、LiNET)	2in/2out 入力 (Analog、LiNET)
音響性能	入力インピーダンス	12k Ω (バランス)	12k Ω (バランス)
	最大入力レベル	+18dBu	+21dBu
	周波数特性	± 0.5dB (10Hz ~ 30kHz、4 Ω)	± 0.1dB (20Hz ~ 20kHz、4 Ω)
	THD (20Hz ~ 20kHz)	< 0.001%	< 0.01%、8 Ω P/2
	ダンピングファクター	-	> 400
DSP	入出力	4in (アナログ)、4in (デジタル) /4out (アナログ)	2in/2out
	プロセッサ	アナログデバイス SHARC DSP	アナログデバイス SHARC DSP
	サンプリングレート	96kHz/32bit フローティングポイント	96kHz/32bit フローティングポイント
	プリセット	190 : 工場設定、10 : ユーザー設定	190 : 工場設定、10 : ユーザー設定
コンパレーター	チャンネル	-	2
パワーアンプ	チャンネル	-	2
	ステレオ出力 (THD1%、100V、60Hz)	-	8 Ω : 2 × 1950W 4 Ω : 2 × 3000W 2 Ω : 2 × 4000W
	ピーク出力 (偏差 ± 1.25%)	-	4 Ω : 2 × 4700W
	ブリッジ出力 (THD1%、100V、60Hz)	-	8 Ω : 6000W 4 Ω : 8000W
	出力回路	-	Class H
	出力電圧	-	200V/pk
	電源 / エンクロージャー	電源	AC100V、50/60Hz
	寸法 (W × H × D)	483 × 44.4 × 200mm (除突起物)	483 × 88 × 453mm (除突起物)
	質量	3.4kg	13kg

		LINUS 10-C	LINUS 5-C
チャンネル		4in/4out 入力 (Analog、LiNET-C)	
音響性能	入力インピーダンス	16k Ω (バランス)	
	最大入力レベル	+18dBu	
	周波数特性	± 0.3dB (20Hz ~ 20kHz、4 Ω)	
	THD (20Hz ~ 20kHz)	< 0.009%、4 Ω P/2	
	ダンピングファクター	> 600	
DSP	入出力	4in/4out	
	プロセッサ	アナログデバイス SHARC DSP	
	サンプリングレート	96kHz/32bit フローティングポイント	
	プリセット	TiRAY、CoRAY、HOPS-Series、 G-Series、D-Series、CUE-Series、 U4	D-Series、G300/G500、CoRAY、 HOPS-Series、OMNIO5、TiRAY (シ ステムによる)
パワーアンプ	チャンネル	4	
	ステレオ出力 (THD1%、100V、 60Hz)	8 Ω : 4 × 1260W 4 Ω : 4 × 1980W 2 Ω : 4 × 2250W	8 Ω : 4 × 360W 4 Ω : 4 × 630W 2 Ω : 4 × 1125W
	ピーク出力 (偏差 ± 1.25%)	4 Ω : 4 × 4680W	4 Ω : 4 × 1440W
	出力回路	Class D	
	電源 / エンクロージャー	電源	AC100V、50/60Hz
	寸法 (W × H × D)	483 × 88.9 × 453mm	
	質量	14.3kg	10.7kg



CODA

C O D A A U D I O

